

貸借対照表 (前年度対比)

令和2年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	152,669,310	165,412,226	△ 12,742,916
未収金			0
流動資産合計	152,669,310	165,412,226	△ 12,742,916
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
土地	896,084,957	896,084,957	0
基本財産合計	896,084,957	896,084,957	0
(2) 特定資産			
建物	318,383,456	331,594,043	△ 13,210,587
減価償却引当資産	193,559,545	193,559,545	0
退職給付引当資産	28,822,000	24,022,000	4,800,000
役員退職慰労引当資産	3,420,000	2,850,000	570,000
基本金	65,650,000	65,650,000	0
近代化基金	1,579,964,623	1,569,715,677	10,248,946
資産維持・保全特定資産	105,000,000	108,600,000	△ 3,600,000
構築物	119,778,858	140,985,108	△ 21,206,250
特別積立金	307,372,299	296,372,299	11,000,000
車両運搬具	6,322,829	6,253,740	69,089
什器備品	5,187,447	4,873,309	314,138
機械装置	17,775,751	20,177,015	△ 2,401,264
特定資産合計	2,751,236,808	2,764,652,736	△ 13,415,928
(3) その他固定資産			
車両運搬具	3,965,472	0	3,965,472
什器備品	781,302	1,191,934	△ 410,632
水道加入金	315,360	315,360	0
預託金	63,980	43,680	20,300
出資金	340,000	340,000	0
事業積立金			0
長期前払費用	34,373	60,149	△ 25,776
その他固定資産合計	5,500,487	1,951,123	3,549,364
固定資産合計	3,652,822,252	3,662,688,816	△ 9,866,564
資産合計	3,805,491,562	3,828,101,042	△ 22,609,480
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	83,200	83,100	100
前受金	23,400	37,200	△ 13,800
預り金	17,097,170	15,856,208	1,240,962
流動負債合計	17,203,770	15,976,508	1,227,262
2. 固定負債			
退職給付引当金	28,822,000	24,022,000	4,800,000
役員退職慰労引当金	3,420,000	2,850,000	570,000
長期前受収益	105,000,000	108,600,000	△ 3,600,000
固定負債合計	137,242,000	135,472,000	1,770,000
負債合計	154,445,770	151,448,508	2,997,262
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	3,651,045,792	3,676,652,534	△ 25,606,742
(うち特定資産への充当額)	(896,084,957)	(896,084,957)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(2,751,236,808)	(2,764,652,736)	(△ 13,415,928)
正味財産合計	3,651,045,792	3,676,652,534	△ 25,606,742
負債及び正味財産合計	3,805,491,562	3,828,101,042	△ 22,609,480

貸借対照表 (会計別)

令和2年3月31日現在

(単位：円)

科 目	一般会計	交付金特別会計	合 計
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	152,669,310		152,669,310
未収金			0
流動資産合計	152,669,310		152,669,310
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
土地		896,084,957	896,084,957
基本財産合計		896,084,957	896,084,957
(2) 特定資産			
建物		318,383,456	318,383,456
減価償却引当資産		193,559,545	193,559,545
退職給付引当資産	28,822,000		28,822,000
役員退職慰労引当資産	3,420,000		3,420,000
基本金	65,650,000		65,650,000
近代化基金		1,579,964,623	1,579,964,623
資産維持・保全特定資産		105,000,000	105,000,000
構築物		119,778,858	119,778,858
特別積立金		307,372,299	307,372,299
車両運搬具		6,322,829	6,322,829
什器備品		5,187,447	5,187,447
機械装置		17,775,751	17,775,751
特定資産合計	97,892,000	2,653,344,808	2,751,236,808
(3) その他固定資産			
車両運搬具	3,965,472		3,965,472
什器備品	781,302		781,302
水道加入金		315,360	315,360
預託金	10,490	53,490	63,980
長期前払費用		34,373	34,373
出資金	340,000		340,000
事業積立金			
その他固定資産合計	5,097,264	403,223	5,500,487
固定資産合計	102,989,264	3,549,832,988	3,652,822,252
資産合計	255,658,574	3,549,832,988	3,805,491,562
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	83,200		83,200
前受金	23,400		23,400
預り金	17,097,170		17,097,170
流動負債合計	17,203,770		17,203,770
2. 固定負債			
退職給付引当金	28,822,000		28,822,000
役員退職慰労引当金	3,420,000		3,420,000
長期前受収益	0	105,000,000	105,000,000
固定負債合計	32,242,000	105,000,000	137,242,000
負債合計	49,445,770	105,000,000	154,445,770
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	206,212,804	3,444,832,988	3,651,045,792
(うち基本財産への充当額)		(896,084,957)	(896,084,957)
(うち特定資産への充当額)	(97,892,000)	(2,653,344,808)	(2,764,652,736)
正味財産合計	206,212,804	3,444,832,988	3,651,045,792
負債及び正味財産合計	255,658,574	3,549,832,988	3,805,491,562

損 益 計 算 書

(正味財産増減計算書)

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収入			
受取入会金			
受取入会金	2,700,000	4,400,000	△ 1,700,000
受取入会金計	2,700,000	4,400,000	△ 1,700,000
受取会費			
普通会员受取会費	133,901,200	131,272,320	2,628,880
受取会費計	133,901,200	131,272,320	2,628,880
事業収益			
補助金等収入	460,141,000	444,893,000	15,248,000
利息収入計	1,748,045	1,795,705	△ 47,660
研修センター等利用収入	5,486,247	5,418,994	67,253
事業収益計	467,375,292	452,107,699	15,267,593
受取補助金等			
全ト協助成金収入	31,434,734	31,744,523	△ 309,789
全ト協受取補助金等計	31,434,734	31,744,523	△ 309,789
雑収益			
受取利息	22,212	21,472	740
雑収入	4,377,972	5,033,108	△ 655,136
雑収益計	4,400,184	5,054,580	△ 654,396
その他収入	8,593,924	8,672,016	△ 78,092
その他収入計	8,593,924	8,672,016	△ 78,092
経常収益計	648,405,334	633,251,138	15,154,196
(2) 経常費用			
事業費			
給料手当	54,123,501	52,809,385	1,314,116
賞与	9,274,600	9,179,600	95,000
法定福利費	9,233,894	9,299,472	△ 65,578
旅費交通費	5,794,289	5,080,234	714,055
通信運搬費	4,225,214	3,643,280	581,934
減価償却費計	40,527,845	40,203,996	323,849
会議費	918,893	1,011,768	△ 92,875
消耗什器備品費	0	94,478	△ 94,478
消耗品費	1,620,015	2,129,324	△ 509,309
修繕費	3,685,347	4,245,307	△ 559,960
印刷製本費	10,612,839	10,965,118	△ 352,279
光熱水料費	7,626,798	7,785,704	△ 158,906
賃借料	3,618,208	2,951,927	666,281
保険料	1,143,006	1,187,835	△ 44,829
諸謝金	633,096	1,110,740	△ 477,644
租税公課	6,329,344	6,326,844	2,500
支払負担金	355,500	308,000	47,500
支払助成金	213,882,935	184,832,552	29,050,383
委託費	18,078,686	17,184,146	894,540
車輛費	1,430,345	1,655,879	△ 225,534
中央出捐	105,832,430	109,443,678	△ 3,611,248
会場費	1,815,578	2,023,306	△ 207,728
表彰費	2,252,843	2,430,668	△ 177,825
広告宣伝費	17,196,190	12,096,756	5,099,434
図書費（事業）	1,026	0	1,026
雑費	2,404,662	2,871,737	△ 467,075
事業費計	522,617,084	490,871,734	31,745,350

科 目	当年度	前年度	増減
管理費			
役員報酬	12,150,000	6,840,000	5,310,000
給料手当	25,582,771	29,473,892	△ 3,891,121
賞与	4,389,400	4,850,400	△ 461,000
役員退職慰労金			
法定福利費	11,490,638	9,306,486	2,184,152
退職給付引当金繰入額	4,800,000	3,800,000	1,000,000
役員退職慰労引当金繰入額	570,000	570,000	0
福利厚生費	22,797,568	14,445,014	8,352,554
会議費	11,703,556	12,598,530	△ 894,974
交際費	639,554	842,526	△ 202,972
旅費交通費	11,600,115	13,153,061	△ 1,552,946
通信運搬費	3,220,491	3,711,812	△ 491,321
減価償却費	771,910	328,475	443,435
消耗什器備品費	491,660		
消耗品費	2,127,963	1,300,395	827,568
修繕費	57,940	76,572	△ 18,632
印刷製本費	4,641,799	5,255,981	△ 614,182
光熱水料費	1,139,849	1,165,441	△ 25,592
賃借料	2,958,954	2,334,770	624,184
保険料	243,427	160,088	83,339
諸謝金	1,093,300	2,940,810	△ 1,847,510
租税公課	1,968,500	1,967,500	1,000
支払負担金	13,350,240	12,578,620	771,620
支払寄付金	835,080	670,721	164,359
車輛費	155,830	290,543	△ 134,713
委託費	998,750	2,616,872	△ 1,618,122
表彰費	2,692,120	2,967,907	△ 275,787
会場費	1,275,220	1,199,391	75,829
広告宣伝費	1,769,360	2,026,976	△ 257,616
図書費	2,500	38,238	△ 35,738
支払指導料	949,200	1,008,000	△ 58,800
諸用紙費	2,434,956	2,686,388	△ 251,432
雑費	2,409,138	2,726,651	△ 317,513
管理費計	151,311,789	143,932,060	7,379,729
経常費用計	673,928,873	634,803,794	39,125,079
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 25,523,539	△ 1,552,656	△ 23,970,883
当期経常増減額	△ 25,523,539	△ 1,552,656	△ 23,970,883
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益			
車両運搬具売却益			
固定資産売却益計			
経常外収益計			
(2) 経常外費用			
固定資産売却損失			
土地売却損失			
固定資産減損損失			
建物除却損失			
構築物除却損失			
什器備品除却損失	2		2
車両除却損失	1	1	0
機械装置除却損失	0	91,023	△ 91,023
固定資産除却損失計	3	91,024	△ 91,021
経常外費用計	3	91,024	△ 91,021
当期経常外増減額	△ 3	△ 91,024	91,021
税引前当期一般正味財産増減額	△ 25,523,542	△ 1,643,680	△ 23,879,862
法人税・住民税及び事業税	83,200	83,100	100
当期一般正味財産増減額	△ 25,606,742	△ 1,726,780	△ 23,879,962
一般正味財産期首残高	3,676,652,534	3,678,379,314	△ 1,726,780
一般正味財産期末残高	3,651,045,792	3,676,652,534	△ 25,606,742
Ⅱ 正味財産期末残高	3,651,045,792	3,676,652,534	△ 25,606,742

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準および評価方法について
取得価格を以て評価基準並びに評価方法とする。
- (2) 固定資産減価償却について
「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」別表に定める耐用年数、償却率により毎事業年度末に実施、その方法は、定額法による。
- (3) 引当金資産の計算基準について
 - ① 退職給付引当資産
 - ② 役員退職慰労引当資産期中において増加する額を予算に計上して引当額として計上する。
- (4) 資金の範囲について
資金の範囲は、現金・預金・未払金である。
なお、前期末および当期末残高は、下記4の通りである。
- (5) 担保に供している資産について
なし
- (6) 保証債務について
なし
- (7) 本計算書は、公益法人会計基準に基づき、勘定科目等一部改訂している。

2 基本財産の増減および残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土 地	896,084,957	0	0	896,084,957
合 計	896,084,957	0	0	896,084,957

3 特定資産の増減および残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基 本 金	65,650,000	0	0	65,650,000
近 代 化 基 金	1,569,715,677	10,248,946	0	1,579,964,623
特 別 積 立 金	296,372,299	11,000,000	0	307,372,299
資産維持・保全特定資産	108,600,000	0	3,600,000	105,000,000
減価償却引当資産	193,559,545	0	0	193,559,545
退職給付引当資産	24,022,000	4,800,000	0	28,822,000
役員退職慰労引当資産	2,850,000	570,000	0	3,420,000
建 物	331,594,043	0	13,210,587	318,383,456
車 両 運 搬 具	6,253,740	1,879,028	1,809,939	6,322,829
機 械 装 置	20,177,015	0	2,401,264	17,775,751
構 築 物	140,985,108	0	21,206,250	119,778,858
什 器 備 品	4,873,309	2,213,946	1,899,808	5,187,447
合 計	2,764,652,736	30,711,920	44,127,848	2,751,236,808

4 次期繰越収支差額に含まれる流動資産及び流動負債の内訳。

(単位：円)

科 目		前 期 末 残 高	当 期 末 残 高
流動資産	現 金 預 金	165,412,226	152,669,310
	未 収 金	0	0
	合 計	165,412,226	152,669,310
流動負債	未 払 金	83,100	83,200
	預 り 金	15,856,208	17,097,170
	前 受 金	37,200	23,400
	合 計	15,976,508	17,203,770
次期繰越収支差額		149,435,718	135,465,540

5 固定資産の取得価格、減価償却累計額および当期残高は、次の通りである。

(直接法により減価償却を行っている)

(単位：円)

科 目	取 得 価 格	減価償却累計額	当 期 末 残 高
建 物	670,685,410	352,301,954	318,383,456
車 両 運 搬 具	19,131,106	12,808,277	6,322,829
機 械 装 置	57,237,132	39,461,381	17,775,751
構 築 物	313,634,265	193,855,407	119,778,858
什 器 備 品	19,948,795	14,761,348	5,187,447
車両運搬具（その他）	4,326,750	361,278	3,965,472
什器備品（その他）	2,528,280	1,746,978	781,302
合 計	1,087,491,738	615,296,623	472,195,115

6 減損損失関係は、次の通りである。

(単位：円)

種 類	施 設 名	場 所	減損損失の金額
車 両 運 搬 具	県南支部	いわき市小名浜島字館下 19 - 1	1
什 器 備 品	本部研修センター	福島市飯坂町平野字若狭小屋 32	1
什 器 備 品	相馬方部共同休憩所	相馬市赤木字松ヶ澤 14 - 7	1
合 計			3

注 1. 車両は、県南支部パトロール車代替による除却損失処理を実施した。

2. 什器備品は、廃棄処分による除却損失処理を実施した。

附属明細書

1. 基本財産、特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載している。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付金 引当金	24,022,000	4,800,000			28,822,000
役員退職 慰労引当金	2,850,000	570,000			3,420,000

(注) 「当期増加額」は本年度分各々4,800,000円、570,000円を加算した。

財 産 目 録

令和2年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	手許保管	運転資金として (本部)	220,519
	手許保管	運転資金として (支部)	404,837
当座預金	常陽銀行福島支店 92	運転資金として	373,792
振替預金	郡山貯金局 02110-5-3091	運転資金として	1,203,869
普通預金	商工中金福島支店 1016547	運転資金として	0
	常陽銀行福島支店 720597	運転資金として	2,828,204
	東邦銀行平野支店 153753	運転資金として	60,688,876
	東邦銀行平野支店 309958	義援金預かり	670,651
	東邦銀行平野支店 支部関係	運転資金として (支部)	73,089,043
	常陽銀行湯本支店 いわき支部	運転資金として (支部)	6,643,928
	東邦銀行郡山卸町支店 県中支部	運転資金として (支部)	6,545,591
未収金			
流 動 資 産 合 計			152,669,310
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
土地	本部研修センター 福島市飯坂町平野字若狭小屋 32、4720.28㎡ (2,737㎡ 1406㎡ 583.37㎡)	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	110,246,625
	いわき共同休憩所いわき市小名浜島字籾下 19 番地 1、2790.06㎡	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	70,000,000
	県中研修センター郡山市喜久田町卸三丁目5 番地、10864.93㎡	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	385,705,015
	会津方部共同休憩所 会津若松市町北町大字始字見島 80 番地 2、2,922.87㎡	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	56,050,000
	相馬方部共同休憩所 相馬市赤木字松ヶ沢 144 番 7、5366.25㎡	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	61,074,611
	白河の関トラックスステーション泉崎村大字泉崎字夏針 15-1、18,385.45㎡	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	213,008,706
基 本 財 産 合 計			896,084,957
(2) 特定資産			
退職引当資産			32,242,000
退職給付引当資産	東邦銀行平野支店 27668-007、017、018、019、016	公益・共益事業・法人会計の引当資産であり、	28,822,000
役員退職慰労引当資産	東邦銀行平野支店 27668-014	役職員退職金支払資金	3,420,000
建物			318,383,456
	本部研修センター 882.58㎡ 電気設備工事	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	6,264,653
	レクリエーションセンター 826.47㎡施設	2%収益事業に供している。 88%共益事業・10%法人会計	72,343,546
	いわき共同休憩所 387.54㎡研修棟補修・電気設備、ボイラー補修	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	3,463,885
	県中研修センター 1350.66㎡管理棟・研修棟・電気設備・車庫棟・用具棟	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	83,301,054
	会津方部共同休憩所 276.55㎡増改築・車庫・電気設備他	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	19,513,783
	相馬方部共同休憩所 242.9㎡ 休憩所・給排水衛生設備・電気設備工事	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	8,763,077
	白河の関トラックスステーション管理・研修棟・共同休憩所・車庫棟・用具棟	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	124,733,458
車両運搬具			6,322,829
	本部指導車スバルインプレッサ	100%公益事業目的である	872,941
	本部指導車スバルインプレッサ	100%公益事業目的である	1,111,267
	福島パト車日産 AD エキスパート	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	1
	郡山パト車トヨタフィールダー X	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	1,099,634
	県南パト車トヨタサクシードバン UL	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	1,722,134
	会津パト車トヨタサクシードバン UL	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	1
	相双パト車トヨタフィールダー X	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	1
	いわきパト車トヨタサクシードバン UL	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	1,441,163
	業務連絡車トヨタプリウス	100%公益事業目的である	1
	カーナビ取付取付取外し	100%公益事業目的である	75,686
機械装置			17,775,751
	本部研修センター冷暖房装置 1 F、2 F・修理保守他	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	6,469,155
	レクリエーションセンター冷暖房施設 1 F	2%収益事業に供している。 88%共益事業・10%法人会計	603,229
	いわき共同休憩所冷暖房施設・床置エアコン	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	759,461
	県中研修センター機械装置工事	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	193,725
	会津方部共同休憩所 冷暖房施設	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	146,369
	相馬方部共同休憩所 冷暖房設備	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	0
	白河の関トラックスステーション太陽光発電	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	9,603,812

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
構築物			119,778,858
	本部研修センター路面舗装・外周柵工事	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	3
	レクリエーションセンター擁壁工事	2%収益事業に供している。88%共益事業・10%法人会計	1,254,950
	いわき共同休憩所 路面舗装	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	4
	県中研修センターグランド舗装・外溝工事	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	11,912,157
	会津方部共同休憩所 広告塔	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	137,893
	相馬方部共同休憩所路面舗装 L型・舗装・U型工事	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	1,528,081
	白河の関トラックステーション浄化槽設備・外灯設備・舗装・フィンス工事	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	104,945,770
什器備品			5,187,447
	本部研修センターシュレッター・パソコン・応接セット他	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	3,630,793
	いわき共同休憩所テレビ・プロジェクター・分煙機・ビデオ	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	5
	県中研修センター分煙機 1 F・2 F	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	1,208,422
	会津方部共同休憩所音響設備・分煙機	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	191,266
	相馬方部共同休憩所 液晶テレビ他	60%公益目的保有財産である。30%共益事業・10%法人会計	36,001
	白河の関トラックステーション音響設備	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	120,960
減価償却引当資産	商工中金福島支店	100%：法人会計に供している財産である。	193,559,545
	普通預金D, 1002589		11,059,545
	定期預金 5124883・5032164・5134455		62,500,000
	商工債 780・823		120,000,000
近代化基金	商工中金福島支店	100%：公益目的保有財産である。	1,579,964,623
	当座預金 2002485		314,565
	普通預金A16547・B17705・C03712・D02589・F05529, G52624		118,650,058
	定期預金 5173256・5125219		11,000,000
	商工債「い第782号商工債他7件」		1,450,000,000
特別積立金	商工中金福島支店		307,372,299
	本部研修センター改築特別積立金 普通F1005529, 商工債3件	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	225,256,828
	いわき方部共同休憩所改築特別積立金 普通G1052624, 商工債1件	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	82,115,471
資産維持・保全特定資産	商工中金福島支店		105,000,000
	定期預金 5129320, 5212171	100%：公益目的保有財産である。	105,000,000
基本金	定期預金	100%：法人会計に供している財産である。	65,650,000
	東邦銀行平野支店 22684-023, 22684-024, 22684-022		15,850,000
	常陽銀行福島支店 028, 038, 035, 036		49,800,000
特 定 資 産 合 計			2,751,236,808
(3) その他の固定資産			
車両運搬具	本部連絡車日産セレナ	20%公益目的保有財産である。20%共益事業・60%法人会計	3,965,472
什器備品	本部研修センター電話設備、音響設備	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	781,302
水道加入金	白河の関トラックステーション水道加入	80%公益目的保有財産である。10%共益事業・10%法人会計	315,360
預託金（特定）	本部指導車スバルインプレッサ他	100%：公益目的保有財産である。	53,490
預託金	本部連絡車日産セレナ	100%：法人会計に供している財産である。	10,490
出資金	日本トラック興業株式会社	管理目的の財源として使用。100%：法人会計に供している。	340,000
事業積立金	記念事業積立として	管理目的の財源として使用。100%：法人会計に供している。	0
長期前払費用	本部指導車スバルインプレッサ点検料	100%公益事業目的である	34,373
その他の固定資産合計			5,500,487
固 定 資 産 合 計			3,652,822,252
資 産 合 計			3,805,491,562
Ⅱ負債の部			
1. 流動負債			
未払金	未払法人税他	公益目的・法人会計に供する経費等の未払分	83,200
前受金	協会費	法人会計に供する協会費の前受分	23,400
預り金	引越部会預り金他	公益目的・法人会計に供する部会費預り・経費等の未払分	17,097,170
流 動 負 債 合 計			17,203,770
2. 固定負債			
退職給付引当金	職員	公益・共益事業・管理目的の業務に従事する役員員退職給付金の引当金	28,822,000
役員退職慰労引当金	常勤役員	公益・共益事業・管理目的の業務に従事する役員員退職給付金の引当金	3,420,000
長期前受収益	白河の関トラックステーション協力金		105,000,000
固 定 負 債 合 計			137,242,000
負 債 合 計			154,445,770
正 味 財 産			3,651,045,792

監 査 報 告 書

公益社団法人福島県トラック協会
会 長 右 近 八 郎 様

私たちは、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの事業年度における会計及び業務の監査を行い、以下のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて、財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査の結果

- (1) 貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び収支計算書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく反映していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失はないと認める。

令和2年5月13日

監 事	宮崎 泰明	
監 事	大内 孝浩	
監 事	吉田 健二	
監 事	林 富雄	
監 事	中野 光	

令和元年度事業報告

主な事業概況

1 令和元年度の日本経済とトラック運送業界の現状

- (1) 令和元年度の我が国経済は、景気の悪化が鮮明になる。実質経済成長率は0.7%増となり、個人消費は若干加速するものの伸び悩む。設備投資は比較的堅調ながら、さらに減速する。住宅投資や官公需が押上げに寄与し、外需の不振が下押しする。

個人消費は、雇用環境の改善が進むものの、可処分所得は伸び悩む。完全失業率は2%台前半～半ばまで低下し、労働需給はさらにひっ迫する見通し。緩やかな賃金上昇が続くものの、物価上昇を受け実質ベースの可処分所得は伸び悩む。

令和元年度は上期堅調ながら下期に失速し、通年で0.5%増になる。上期における消費増税前の駆け込み需要の規模は限定的である。消費増税に伴う消費マインドの悪化が消費性向の低下をもたらすリスクがある。商業動態統計による10月の商業販売額は8.7%の大幅減。下期の個人消費は微減となる見通し。

- (2) 景気悪化を受け、総輸送量は令和元年度通期で0.7%減となる見通し。令和元年度は上期・下期で明暗が分かれる。上期は全品類のプラスを受け、2%台の堅調な伸びを達成したもよう。下期は景気悪化の影響により、総じて低調な荷動きが避けられない。消費関連、生産関連貨物は3%台後半のマイナスとなり、輸送量を下押しする。

- 消費関連貨物；平成元年度の上期は日用品などを中心に堅調ながら、下期に急落。上期は消費増税前の駆け込み需要などから日用品が堅調。下期は一転して大幅な下落に転じ、通年ではほぼ横ばいにとどまる。
- 生産関連貨物；上期は堅調ながら、下期に水面下に沈む。一般機械や自動車・自動車部品などが下期にマイナスへ反転する。
- 建設関連貨物；公共投資や住宅投資が堅調ながら輸送量は小幅減になる。公共投資に3%台の伸びが予測されるものの、大型の公共土木工事の執行は無く、輸送量の押上げ効果は期待できない。

2 燃料価格高騰・経営危機対策の取組み

- (1) 国土交通省及び全ト協・東北トラック連合会と連携し「燃料サーチャージ制」の導入（届出）促進並びに原価管理に基づく運賃・料金の適正収受・価格転嫁促進に向けた取り組みを推進してきた。
- (2) 令和元年度の軽油価格（ローリー価格・消費税抜き）は、平成31年4月の99.94円からスタートし、5月には100円台に突入したが、6月からは90円台に落ち着いている。いずれにしても3年前と比較すると20円程度高騰しており、今後の対策が必要となってくる。

3 東京電力福島第一原発事故に係る取組み

- (1) 原発事故から9年が経過した現在、帰還困難区域を除いた各自治体では、ほぼ除染作業は完了している。また、中間貯蔵施設建設に伴う用地交渉が進み、令和元年3月末現在で、契約済みは全地権者2,360人のうち1,759人（74.5%）で、契約済み面積は予定1,600㌥の70.1%にあたる約1,122㌥で公有地等330㌥を合わせると1,452㌥で約90.8%となり、契約が進み、中間貯蔵施設内では6箇所の貯蔵施設が稼働している。

- (2) 環境省福島地方環境事務所並びに福島県選出国会議員に対して、平成30年11月17日に福島県トラック協会と福島復興支援輸送協同組合の連名で「中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送に向けた要望書」を提出した。内容は、働き方改革を踏まえてトラック運転者（ダンプトラックも含む）の労働時間の短縮改善と標準貨物自動車運送約款改正に伴い適正料金の収受である。
- (3) 福島県トラック協会は、中間貯蔵施設建設に使用する建設資材の輸送と除去土壌等の輸送に対応するため設立した「福島復興支援輸送協同組合」を今後も支援していく。令和元年度の実績は、除去土壌等の輸送でダンプトラック42,609台を手配し、売上実績で2,623,397千円となっている。

4 令和元年度税制改正・予算に関する要望活動などの取組み

- (1) 令和元年度税制改正・予算に関する要望活動を全ト協と連携して取り組んできた。本年も例年実施してきた第一次行動（福島県選出国会議員への東京に出向いての直接要望）は参議院選挙もあり見送った。
- (2) 福島県トラック協会の第二次要望行動については、令和元年11月16日（土）の第4回理事会終了後の福島県トラック事業政治連盟懇親パーティーの開催となった。福島県選出国会議員12名に案内を送付し、出席した国会議員（本人6名）及び秘書に対し、税制改正関連要望項目3項目と予算関連要望項目7項目並びに福島県トラック協会独自の要望書（働き方改革を踏まえトラックドライバーの長時間労働改善に向けた要望書）を手交した。また、参加したトラック協会会員から要望事項の実現に向け働きかけた。

5 交通事故・労災事故の発生状況と事故防止の取組み

- (1) 令和元年に福島県内で発生した交通事故は件数が3,919件と前年比673件減少した。傷者数についても4,683人と前年比799人も減少している。また死者数も61人と前年比14人減少したが、特に高齢者が多い。一方、第一当事者が福島県内居住の事業用貨物車の交通事故発生状況は、発生件数が67件と前年比23件減少し、死者数も1人と前年比1人減少した。傷者数も85人と前年比34人減少といずれも減少した。
- (2) トラックによる事故は追突事故が半数を占める一方、死亡事故に限れば交差点事故が最も多い現状に鑑み、今年度は死亡事故の3割を占める交差点事故を防止するため全日本トラック協会が制作した「トラック交差点事故防止マニュアル～交差点事故撲滅キット～」を使用して安全指導に効果的に活用するための要点を説明するとともに事業者同士の情報交換を行った。
- ・令和元年6月7日（金）県中研修センター 89名
- また、死亡事故に繋がりやすい交差点事故と追突事故にポイントを絞り、ドライブレコーダの映像を活用して事故の重大性についての理解と防止のヒントを見出すことを目的に今回は県北地区ドライバーを対象に「60分でわかるトラック重大事故対策出前セミナー」を開催した。
- ・令和元年6月8日（土）県ト協研修センター 144名
- (3) 令和元年の労働災害発生状況は、福島県内の道路貨物運送業で死亡者0人（前年比1人減少）、死傷者数183人（前年比13人減少）となっており、いずれも減少となっている。

6 人材確保対策の取組み

- (1) 昨今の少子化問題や若者の「クルマ離れ」などの要因から、特にトラックドライバーの労働力不足はますます深刻化してきており、今後の日本経済・産業や生活を支えるライフラインである「物流」に

様々な支障をきたすことが懸念されている。こうした中、トラック輸送業界へ就職する若者を確保するため、福島運輸支局と本年も共同で高等学校訪問（10校）を実施した。

- ・令和元年6月24日（月） 県立光南高校、県立若松商業高校、私立会津北嶺高校、
県立猪苗代高校

- ・令和元年7月4日（木） 県立勿来高校、県立四倉高校、私立磐城緑蔭高校

- ・令和元年7月5日（金） 県立福島北高校、私立聖光学院高校、県立梁川高校

- (2) 物流交流授業の開催；小学5年生の学習指導要領に準拠した社会科授業と連携し、「物流」の仕組み及び物流の主役であるトラック輸送の役割や重要性について授業を通して伝えながらトラック運送業界に関心を持たせることで、将来のトラック運送業界を担う人材確保につなげることを目的として開催した。

- ・令和2年1月23日（木）3・4校時（10：15～12：00）

- ・福島市立森合小学校 多目的ホール及び屋外

- ・同校5年生116名の児童が授業を受講

- (3) ハローワーク福島との運送業企業説明会（ミニ面接会）

トラック運送業界への即戦力の労働力確保（中途採用）を目的として、ハローワーク及びトラック協会の共催による運送業企業説明会を令和元年度も開催した。

- ・令和元年11月13日（水）県北支部（第3回）

- ・令和2年2月3日（月）いわき支部（第1回）

7 「トラックの日」関連事業の取組み

- (1) トラック運送業界の重要性について多くの方に認知してもらうために、10月9日を「トラックの日」と制定し、全国のトラック協会では様々なイベントを実施している。福島県トラック協会最大のイベントである「トラックの日フェスタ2019」は令和元年9月7日（土）に郡山市「ビッグパレットふくしま 展示ホールC及び屋外展示場」において開催された。本フェスタは福島県トラック協会の主催事業で、昨年に引き続き青年部会並びに女性部会のメンバーで構成された「トラックの日フェスタ実行委員会」が企画立案から運営までの全てを担当し、昨年のフェスタをベースにブラッシュアップを図りながら開催した。

- ・最終来場者数は約3,500人（昨年は約3,000人）

- 2 「トラックの森づくり事業」は、令和元年10月19日（土）に相馬市磯部の大洲地区内にて800本のクロマツ苗木の植樹を予定したが、台風の影響で中止し、相馬地方森林組合に委託した。

今後については、令和2年度から令和7年度までの6年間について協定を契約した。

- ・令和2年度～令和5年度（4年間）各年度5区画植樹

- ・令和6年度～令和7年度（2年間）0.4haの捕植、下刈り

8 「Gマーク申請・認定」の取組み

- (1) 令和元年度の安全性評価事業の実施にあたり令和元年5月17日（金）に説明会を開催した。また、昨年度に引き続き安全性評価事業申請に係る相談業務を令和元年6月に、地域別に実施、申請事業所の評価点数及び認定率の向上を図った。

- (2) 巡回指導等を通じ、新規申請事業所の掘り起こしや更新対象事業所が確実に更新手続きを行うよう積極的な助言・指導を行う等本制度の普及啓発に努めた。令和元年度は、新規20事業所、更新136事業所

の計156事業所が申請し、うち新規19事業所、更新134事業所が認定され、現在497事業所が優良認定を受けている。認定率は30.2%となり、全国平均の30.5%を下回っている。

- (3) 安全性評価事業を事業者及び荷主企業並びに国民一般消費者に広く周知するための広報啓発活動については、全国実施機関と連携・協力して各種広告媒体等を活用し相乗効果を高める等「Gマーク制度」の認知度アップ対策を積極的に務めた。令和元年度はラッピングトラック2両（県中・相双）の追加走行を実施した。また、新規事業者のうち高得点で認定された7事業所を選定し、令和2年1月14日に認定証授与式を行うとともに一般消費者や荷主企業向けに「Gマーク制度」に係る新聞広告を掲載して啓発を図り、当該事業の推進に積極的に協力した。

9 物流セミナーの開催

- (1) 日 時；令和元年9月27日（金） 13時30分開会
(2) 場 所；「ホテルハマツ」郡山市虎丸町3番8号
(3) 講 演

第一部 働き方改革について→講師 上野 諭氏（福島労働局労働基準部監督課長）

車両制限令違反に伴う割引制度停止措置等について→

講師 清水隆博氏（東日本高速道路株）

第二部 働き方改革に係る物流の在り方→講師 小坂真弘氏（日本PMIコンサルティング株）

- (4) 出席者；荷主等39名、事業者等123名 計162名

10 各種助成金事業の取組み

- (1) 令和元年度の運輸事業振興助成交付金特別会計に計上した助成金総204,468千円を会員事業者が有効活用できるよう助成金運営要綱を会員に配布することや予算対比による申請状況をホームページ、広報誌「わだち」に掲載して周知を図ってきた。また、予算枠の厳正執行と申請受付停止措置などルール確立を図ってきた。令和元年度には各助成金の単価の増額及び限度額の増額を検討し助成してきた。助成事業では、早期に予算額を超過し交付申請の受付を停止したものがあるが、申請状況や申請期限の関係などで予算額まで達しないと見込まれる助成事業も見受けられたため、予算額に達したものも含めて2月末まで申請を受け付けした。最終的な助成金総額は213,883千円となった。

11 トラック輸送における取引環境・労働時間改善協議会の取組み

- (1) 「トラック輸送における取引環境・労働時間改善福島県協議会」において、平成28年度から平成29年度までの2か年にわたりパイロット事業を実施し、平成30年度、パイロット事業の成果を取りまとめた「取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン」を中央協議会が策定し、その普及、定着を図ってきた。また、平成30年度には、「コンサルティング事業」を実施し、パイロット事業の結果等から新たに把握された課題の改善やこれまでの取り組みのさらなる深掘りに取り組んだ。
- (2) 働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律が成立し、自動車運転の業務については、令和6年4月1日から時間外労働について年960時間までとする上限規制が適用される。当面は、年休取得5日も含めて対応していく。
- (3) 新標準運送約款改正の対応については平成29年11月4日付で「運賃と料金」を分ける改正があったが、平成30年12月に成立した貨物自動車運送事業法の一部改正により、「運送約款基準の明確化」が示され「運賃と料金」を区別しない運送約款（旧約款）は原則として認可されないことから新約款への

移行に対応してきた。

12 トラック業界のイメージアップ事業の取組み

- (1) 福島県トラック協会では、若者や女性から魅力ある業界として選ばれるような新キャラクターの制作を求める声を受け、昨夏から検討を重ねてきた。キャラクター名は従来の「ふくトラくん」を継承するものの、デザインを一新し作成した。
- (2) トラック運送業のイメージアップと人材確保を図るため、新マスコットキャラクター「ふくトラくん」を活用しながら、これまでのマス広告媒体（テレビ、ラジオ、新聞、チラシ、フリーペーパー等）に、新たにWeb広告媒体（HP、YouTube、動画、SNS、パブリックビューアー等）を活用した総合的なPR事業を展開する。

13 台風19号に係る対応の取組み

- (1) 福島県災害対策本部物資班として、福島県倉庫協会と連携し令和元年10月21日～10月31日までの11日間、物流専門家の派遣と郡山拠点といわき拠点からの緊急支援物資輸送へ対応してきた。
- (2) 福島県内において台風19号により被災された会員事業所（66会員）に対して、被災状況調査結果に基づき見舞金を贈呈することとした。
- (3) 今後については、物流専門家の育成（職員の中から）に取り組んでいく。

14 むすびに

福島県内は東日本大震災と東京電力福島第一原発事故による放射能災害や風評被害の影響とドライバー不足など厳しい環境の下、重大事故が企業の命取りになりかねません。まさに、安全確保を最優先に事業者を支援してきた。特に飲酒運転ゼロをはじめ、重大交通事故ゼロや労災死亡事故ゼロの目標に向かって取り組んできた。

トラック運送業界が国民生活や産業活動を支える基幹産業として改めて認識されるなか、社会的地位の向上を実現するための環境作り、また、福島県トラック協会が将来にわたって存在し続けるための財政、組織基盤作りとして、「収支均衡の財政運営実現」や「公益法人としての組織運営確立」等の改革をはじめ、諸課題解決に向けての事業及び協会運営に取り組んできた。

この一年間にわたる会員各位のご理解とご協力に心から感謝申し上げ平成30年度の事業概況報告とします。

(令和元年度事業報告)

1 組 織

(1) 会 員

平成31年 4月1日現在	令和元年度中の異動		令和2年 3月31日現在
	増	減	
	新規加入	事業廃止等	
952社	27社	11社	968社

(2) 役 職 員

令和2年3月31日

会 長	副会長	専務理事	常務理事	理 事	監 事	職 員	備 考
(1)	(6)	(1)	(1)	30	5	29	() 数字は理事数に含む

※職員数29に支部事務局長・支部職員13名含む

2 総 会

令和元年6月11日（火） 西郷村 グランドエクシブ那須白河
(議 事)

第1号議案 平成30年度貸借対照表及び損益計算書の承認について

- (1) 貸借対照表
- (2) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (3) 財務諸表に対する注記
- (4) 財産目録
- (5) 監査報告書

第2号議案 定款の一部改訂（案）について

第3号議案 常勤理事の報酬額等の限度額について

第4号議案 理事・監事の任期満了に伴う役員改選について
(報告事項)

理事会決議事項の報告について

(1) 平成30年度事業報告

- ①おもな事業概況
- ②組織・総会・理事会・常任理事会・監事会・委員会及び届出・申請・登記事項
- ③その他行事経過

(2) 2019年度事業計画

- (3) 2019年度予算書（正味財産増減計算書）
- (4) 2019年度近代化基金融資について
- (5) 2019年度各種助成金事業一覧について

3 理事会

第1回 理事会（通常）

令和元年 5月22日（水） 県中研修センター

理事会	定数	出席	欠席
理 事	27	20	7
監 事	5	4	1

【報告事項】

1. 2019年度東北運輸局長表彰（自動車関係事業功労）について
2. 平成30年度セーフティチャレンジ事業参加による事故防止コンクール事業所表彰について
3. 定款第26条第7項による職務執行報告について

【議 題】

第1号議案 定時総会対応について

- (1) 総会次第について
- (2) 運営について
- (3) 開催案内について
- (4) 提出議案

1号議案 平成30年度貸借対照表及び損益計算書の承認について

2号議案 定款の一部改訂（案）について

3号議案 常勤理事の報酬額等の限度額について

4号議案 理事・監事の任期満了に伴う役員改選について

- (5) 特別決議（案）について
- (6) スローガン（案）について
- (7) 提出書類について

第2号議案 入会会員及び退会会員について

その他 ①今後の行事予定について

第2回 理事会（臨時）

令和元年6月11日（火） グランドエクシブ那須白河

理事会	定数	出席	欠席
理 事	30	27	3
監 事	5	4	1

【議 題】

第1号議案 会長・副会長・専務理事・常務理事の互選について

第2号議案 顧問の委嘱について

第3号議案 委員会構成（案）について

第4号議案 その他

第3回 理事会（通常）

令和元年8月7日（水） 研修センター

理事会	定数	出席	欠席
理 事	30	26	4
監 事	5	4	1

【報告事項】

1. 令和元年度安全性評価事業申請結果について
2. 令和元年度物流セミナー開催について（素案）
3. 令和元年度東北運輸局長表彰推薦者について
4. 「トラックの日」フェスタの開催について
5. 第42回福島県トラックドライバーコンテスト実施結果について

【議 題】

- 第1号議案 2019年度公益法人定期提出書類事業計画等について
- 第2号議案 令和元年度「トラックの森づくり」について
- 第3号議案 「トラックの森づくり」事業について
- 第4号議案 令和元年度高齢者交通安全対策事業について
- 第5号議案 令和元年度東北トラック協会連合会事業者大会について
- 第6号議案 第24回全国トラック運送事業者大会について
- 第7号議案 入会会員及び退会会員について
- その他 今後の行事予定について

第4回 理 事 会（通常）

令和元年11月16日（土） 郡山ビューホテル

理事会	定数	出席	欠席
理 事	30	19	11
監 事	5	3	2

【報告事項】

1. 令和元年度第1回運行管理者試験結果について
2. 令和元年度物流セミナー開催結果について
3. 第51回全国トラックドライバー・コンテスト結果について
4. 「トラックの日」フェスタ2019について
5. 令和元年度東北トラック協会連合会事業者大会について
6. 第24回全国トラック運送事業者大会について
7. 東北運輸局長・福島運輸支局長表彰者について

【議 題】

- 第1号議案 台風19号に係る対応について
- ①緊急・救援物資輸送対応について
 - ②会員被災状況について
 - ③被災事業者に対する見舞金について
- 第2号議案 信号機のない横断歩道における歩行者保護等を徹底するための更なる取組について（依頼）
- 第3号議案 入会会員及び退会会員について

- その他 ①福島県トラック事業政治連盟懇親パーティーについて
 ②今後の行事予定について

第5回 理 事 会 (通常)

令和2年1月16日 (木) 小名浜オーシャンホテル

理事会	定数	出席	欠席
理 事	30	28	2
監 事	5	4	1

【報告事項】

1. 2019年度安全性評価事業（Gマーク）認定について
2. 令和元年度各種助成事業執行状況について
3. 令和元年度年末年始安全総点検表（自動車輸送関係）集計報告書について
4. 全ト協からの見舞金について
5. グループ補助金の対応について
6. 令和2年度税制改正に関する要望と税制改正大綱の主な内容について
7. 定款第26条第7項による職務執行報告について

【議 題】

- 第1号議案 令和2年度事業計画骨子（案）について
- 第2号議案 総務委員会答申（案）について
- ①台風19号における被災会員事業所への見舞金について
- ②省エネ運転講習会並びにトラックドライバーコンテストブロック予選会について
- 第3号議案 広報委員会答申（案）について
- ①「ふくトラくん」ぬいぐるみ製作について
- ②福島ファイヤーボンズ・福島ユナイテッドFC・福島レッドホープスへの協賛について
- ③命を守るキャンペーンへの協賛について
- 第4号議案 令和2年度定時総会について
- 第5号議案 福島県交通遺児奨学基金への募金について
- 第6号議案 入会会員及び退会会員について
- その他 ①今後の行事予定について

第6回 理 事 会 (通常)

令和2年3月25日 (水) 県中研修センター

理事会	定数	出席	欠席
理 事	30	22	8
監 事	5	4	1

【報告事項】

1. 「全ト協表彰規程による表彰」並びに「正しい運転・明るい輸送運動の表彰」受賞者について
2. 健康経営優良法人2020認定について
3. 新型コロナウイルス対応について
4. 2019年度運輸事業振興助成交付金特別会計変更予算（第1号）について

【議 題】

- 第1号議案 令和2年度事業計画（案）について
- 第2号議案 令和2年度公益法人定期提出書類事業計画書等（案）について
- 第3号議案 令和2年度各種助成事業一覧（案）について
- 第4号議案 令和2年度予算書（正味財産増減計算書）（案）について
- 第5号議案 令和2年度定時総会の開催について
- 第6号議案 令和2年度優良従業員表彰について
- 第7号議案 入会会員及び退会会員について
- その他 ①今後の行事予定について

4 常任理事会

- 第1回 令和元年5月15日（水） 於 県中研修センター
- 第2回 令和元年7月31日（水） 於 福島研修センター
- 第3回 平成元年11月11日（月） 於 福島研修センター
- 第4回 令和2年1月14日（火） 於 福島研修センター
- 第5回 令和2年3月18日（水） 於 福島研修センター

5 監事会

- 第1回 令和元年5月16日（木） 於 県ト協

6 役員選考委員会

- 第1回 令和元年5月20日（月） 於 県中研修センター

7 総務部関係

①総務委員会

- 第1回 令和元年9月18日（水） 県中研修センター

【議 題】

- (1) 令和2年度支部交付金の検討について
- (2) 平成23年度の持寄り金の対応について
- (3) 第5回理事会開催場所の検討について
- (4) その他

- 第2回 令和元年12月10日（火） 県中研修センター

【議 題】

- (1) 台風19号に係る対応について
 - 1. 会員被災状況について
 - 2. 被災事業者に対する見舞金について
 - 3. 復興支援事業助成金について
 - 4. 全ト協等からの見舞金について
- (2) トラックドライバー・コンテストブロック予選会について

- (3) 省エネ運転講習会について
- (4) 2019年度定時総会対応について
- (5) その他

1. 令和2年度定時総会について

第3回 令和2年3月13日（金） 県中研修センター

【議 題】

- (1) 令和2年度支部交付金について
- (2) 令和2年度一般会計収支予算書（案）について
- (3) 台風19号被害に伴う対応について（グループ補助金申請対応）
- (4) 令和2年度定時総会について
- (5) 健康経営優良法人2020（中小企業法人部門）認定について
- (6) その他

- ② 東北運輸局長表彰式 令和元年6月3日 ホテルメトロポリタン仙台
- ③ 東北トラック協会連合会事業者大会 令和元年9月10日 ホテルメトロポリタン山形
- ④ 第24回全国トラック運送事業者事業者大会 令和元年10月2日 幕張メッセ
- ⑤ 令和元年関係功労者等表彰式（東北運輸局長、福島運輸支局長表彰）
令和元年11月1日 ホテル福島グリーンパレス
- ⑥ 支部事務局長業務連絡会議
 - 第1回 令和元年10月23日（水） 県中研修センター
 - 第2回 令和元年12月6日（金） 福島研修センター
 - 第3回 令和2年3月17日（火） 県中研修センター

8 業務部関係

- ① 交付金委員会
 - 第1回 令和元年11月26日（火） 県中研修センター
 - 第2回 令和2年1月29日（水） 県中研修センター
 - 第3回 令和2年3月11日（水） 中止
- ② 広報委員会
 - 第1回 令和元年11月20日（水） 県中研修センター
 - 第2回 令和2年2月13日（木） 県中研修センター
- ③ 福島県検査（平成30年度運輸事業振興助成交付金事業実施状況検査）
令和元年5月13日（月） 県ト協
- ④ 令和元年度財政的援助等団体に係る監査
令和元年12月12日（木） 県ト協
- ⑤ 緊急輸送整備事業
 - イ 郡山市総合防災訓練 令和元年8月31日（土） 郡山市
 - ロ 福島県総合防災訓練 令和元年10月26日（土） 中止
 - ハ 輸送体制整備 飲料水等備蓄

⑥ 第42回ドライバー・コンテスト

福島県大会 令和元年7月26日(金)

出場者数 26名

総合順位(入賞者)

順位 部門	1 位	2 位	3 位
11トン部門	日通郡山運輸(株) 鈴木 悠 記	クレハ運輸トラック(株) 石 川 司	日本通運(株)郡山支店 郡山流通事業所 村 田 健 太
4トン部門	西濃運輸(株)福島支店 松 野 仁	クレハ運輸トラック(株) 赤 川 隆 二	関東西濃運輸(株) いわき支店 加 藤 友 也
トレーラ部門	日本通運(株)郡山支店 郡山コンテナ事業所 遠 藤 光 昭	日化運輸(株) 門 間 芳 諒	エービーカーゴ東日本(株) 福島営業所 鈴 木 秀 一
女性部門	磐梯貨物(株) 佐藤 優里	—	—

Aクラス(入賞者)

順位 部門	1 位	2 位	3 位
11トン部門	日通郡山運輸(株) 鈴木 悠 記	クレハ運輸トラック(株) 石 川 司	日本通運(株)郡山支店 郡山流通事業所 村 田 健 太
4トン部門	西濃運輸(株) 福島支店 松 野 仁	クレハ運輸トラック(株) 赤 川 隆 二	関東西濃運輸(株) いわき支店 加 藤 友 也
トレーラ部門	日本通運(株)郡山支店 郡山コンテナ事業所 遠 藤 光 昭	日化運輸(株) 門 間 芳 諒	丸カ運送(株) 渡 部 朗 人
女性部門	磐梯貨物(株) 佐 藤 優 里	—	—

Bクラス(入賞者)

順位 部門	1 位	2 位	3 位
11トン部門	(株)ユミタ運輸 大 竹 修 平	—	—
4トン部門	J A パールライン福島(株) 会津営業所 岩 渕 和 也	—	—
トレーラ部門	エービーカーゴ東日本(株) 福島営業所 鈴 木 秀 一	—	—
女性部門	—	—	—

全国大会 令和元年10月26日～28日 場所 安全運転中央研修所（ひたちなか市）

福島県代表

4トン部門	松野 仁選手	西濃運輸(株)福島支店	20位
11トン部門	鈴木 悠記選手	日通郡山運輸(株)	8位
トレーラ部門	遠藤 光昭選手	日本通運(株)郡山支店郡山コンテナ事業所	18位
女性部門	辞退		

⑦ 引越基本講習

開催日 令和元年7月16日（火） 会場 県中研修センター

⑧ 引越管理者講習

開催日 令和元年7月17日（水） 会場 県中研修センター

⑨ 「トラックの日」フェスタ

開催日 令和元年9月7日（土） 会場 郡山市「ビッグパレットふくしま」

来場者 3,500人

⑩ トラックの森づくり

令和元年10月19日（土） 中止 相馬市磯部字大洲地内 森林整備面積 0.2ha

クロマツ 800本植樹（相馬地方森林組合10月23日完了）

⑪ トラック運送業説明会（ハローワークとの共催）

開催日 令和元年11月13日（水） 会場 県ト協

⑫ 物流交流授業

開催日 令和2年1月23日（木） 会場 福島市立森合小学校

⑬ トラック運送業説明会（ハローワークとの共催）

開催日 令和2年2月3日（月） 会場 いわき方部共同休憩所

⑭ IT活用セミナー

開催日 令和2年2月6日（木） 会場 県中研修センター

9 適正化事業部

(1) 適正化推進事業

① 地方行政との連携強化の推進

運輸支局と緊密な連絡調整を行い、速報制度・乗務時間等告示違反事業者への指導等の円滑かつ効果的な推進を図った。

- ・速報事案0件、定期報告事案1件（E評価未改善）、相談事案0件を報告した。
- ・乗務時間等告示違反事業者への特別巡回指導⇒4件実施した。

② 適正化事業推進委員会の開催

適正化事業実施機関として効率かつ円滑な業務を推進するため適正化事業推進委員会を開催し、事業進捗状況並びに事業計画等について協議した。

開催日	場 所		摘 要
R 1. 11. 16	郡山ビューホテル		1 回目 7 名出席
R 2. 3. 13 (中止)	県トラック協会県中研修センター (郡山市)		
	委員名	所 属	役 職
委員長	佐藤 信成 氏	丸カ運送株式会社	代表取締役
委 員	佐藤 仁 氏	株式会社丸や運送	代表取締役
〃	金野 直輝 氏	第一貨物(株)郡山支店	支店長
〃	太田 正一 氏	株式会社北海興業	代表取締役会長
〃	古川 圭一 氏	郡山南部運輸株式会社	代表取締役
〃	大竹 博史 氏	株式会社ユミタ運輸	代表取締役
〃	遠藤 秀弥 氏	中村貨物運送株式会社	代表取締役
〃	割谷 明裕 氏	岡田陸運株式会社	代表取締役
〃	荒川 孝一 氏	公益社団法人福島県トラック協会	専務理事

③ 適正化事業の業務運営

適正化事業指導員 7 名により「貨物自動車運送事業法」(平成元年12月19日法律第83号、改正平成26年 6 月13日法律第69号) 第39条の規定に基づく、巡回指導等適正化事業に係る業務の効率的な運営を図った。

④ パトロール業務の運営

適正運行・違法行為の根絶および交通事故防止のため、県単独のパトロール指導員 6 名(支部職員兼任) および適正化指導員による巡回パトロールを行った。

⑤ 巡回指導・パトロール用自動車の管理

輸送の安全を阻害する行為の防止および輸送秩序改善等の調査指導のために運行する巡回指導・パトロール用指導車 8 台(本部 2 台、支部 6 台)の適正管理に務めた。

(2) 輸送秩序確立対策事業

① 物流セミナーの開催

輸送秩序の確立とトラック運送事業の諸課題について理解と協力を求めるとともに適正化事業を推進するため、トラック運送事業者と荷主企業を対象に標記セミナーを開催した。

・開催日時 令和元年 9 月27日 (金) 13 : 30~16 : 00

・開催場所 郡山市「ホテルハマツ」

・参加者 荷主等39名 事業者等123名 計162名

・内 容 【第一部】演題 働き方改革について

講師 福島労働局労働基準部 監督課長 上野 諭 氏

演題 車両制限令違反に伴う割引制度停止措置等について

講師 東日本高速道路株式会社 清水 隆博 氏

【第二部】演題 働き方改革に係る物流の在り方

講師 日本PMIコンサルティング株式会社 代表取締役 小坂 真弘 氏

② 適正化事業指導員研修等

適正化事業指導員の資質向上のため、全国研修をはじめとする各種研修の参加及びパトロール指導員を含めた県内研修を開催した。

研 修 種 類	日 程	出席者数	場所、その他
適正化・パトロール指導員研修	R 1. 12. 6	16 名	福島市
適正化指導員初級研修	H31. 4. 24～25	2 名	東京都
適正化情報処理システム研修	H31. 4. 26	2 名	東京都
適正化指導員専門研修	R 1. 9. 5～6	2 名	東京都
適正化指導員小規模グループ研修	R 1. 10. 17～18	8 名	いわき市
適正化指導員東北ブロック官民合同研修	R 1. 11. 12～13	8 名	秋田県秋田市
適正化事業指導員スキルアップ研修	R 1. 1. 23～24	1 名	東京都
		計39名	

③ 巡回指導等

ア. 巡回指導等

輸送の安全を阻害する行為の防止、輸送秩序の確立その他関係法令の遵守等について巡回訪問し、指導を実施した。

- ・巡回指導事業者数⇒515営業所
- ・指導項目数⇒818件

イ. 霊柩事業者集合指導

霊柩運送事業者で5両未満の営業所を対象に福島運輸支局と協力して集合指導を実施した。

- ・令和元年6月24日（月）9：00～15：30 県トラック協会 県中研修センター
- ・対象地区⇒県中地区、7 営業所
- ・内容⇒1）貨物自動車運送事業（霊柩運送）について

講師 東北運輸局福島運輸支局 輸送・監査部門 運輸企画専門官 鎌田 拓治 氏

2）適正化事業指導員による関係法令に関する個別指導

ウ. パトロール指導

輸送秩序確立等に係る違法行為の防止並びに交通事故防止等のため、パトロールによる啓発活動を実施し、該当事業者に指導を行った。

- ・出勤延べ回数 本部2両301回、支部6両661回

④ 「適正化情報処理システム」の積極的活用

適正化事業の効率化を図るため、関係行政機関との連携を密にし、事業者の指導に必要な情報収集についてコンピュータ機器によるシステム活用を積極的に推進した。

⑤ 適正化事業評議委員会の開催

適正化事業の更なる推進を資するため、評議委員会（3月18日）を企画したが、新型コロナウイルスの影響により4月28日に延期したものの、終息が見込めないため開催を中止した。

開催日	場 所		摘 要
H31.3.19（中止）	福島グリーンパレス（福島市）		
	出席者名	所 属	役 職
委員長	小野 秀昭 氏	株式会社運輸・物流研究室(元 流通経済大学物流科学研究所 教授)	取締役フェロー
委 員	野地 正三 氏	福島民報社	総務局長
〃	田崎 由子 氏	福島県消費者団体連絡協議会	事務局長
〃	国分 和徳 氏	全日本運輸産業労働組合福島県連合会	執行委員長
〃	石井 浩 氏	福島県商工会議所連合会	常任幹事
〃	佐藤 信成 氏	丸カ運送株式会社	代表取締役

参考人	佐藤 聡 氏	東北運輸局福島運輸支局	支局長
〃	木内 俊典 氏	東北運輸局福島運輸支局輸送・監査部門	首席運輸企画専門官
〃	近野 誠一 氏	東北運輸局福島運輸支局輸送・監査部門	運輸企画専門官

⑥ 安全性評価事業への協力

全国適正化実施機関が実施する安全性評価事業に関し、事業所（営業所）への周知、申請受付および巡回指導を優先的に実施した。

○新規申請20事業所、更新申請136事業所

○令和元年5月17日に同事業の説明会を開催した。（162名出席）

○令和元年度認定事業所⇒新規19事業所、更新134事業所 計153事業所

○令和2年1月14日に優良事業所認定証授与式を開催した。（新規7事業所出席）

○令和2年1月15日朝刊に福島民報新聞および福島民友新聞に周知・啓発広告を掲載

⑦ 新規事業者説明会の開催

福島運輸支局で行われる新規許可交付にあわせて、事業者に適正な事業経営の説明会を行った。

○令和元年度⇒44事業者

⑧ TV会議システムを活用した特殊車両講習会の開催

特殊車両通行許可に係る法令等が大幅に改正されたことから、タイムリーな情報を提供できるTV会議システムを活用して初心者やオンライン申請等の内容別に開催した。

開催日	開催場所	講習内容	受講者数
R 1. 5. 10	県中研修センター	特殊通行許可制度概要	14名
R 1. 8. 19	県中研修センター	特車オンライン申請講習	8名
R 1. 12. 9	県中研修センター	特殊通行許可制度	16名
R 2. 3. 10	県中研修センター	特殊通行許可制度（ストリーミング配信のため参加者無し）	
			計 38名

⑨ 荷主と運送事業者のためのトラック運転者の労働時間短縮に向けたセミナーの開催

トラック運転者の労働時間短縮の進め方のノウハウを広く荷主企業やトラック運送事業者に向けて周知するため厚生労働省と国土交通省の協力により開催した。

・開催日時 令和2年2月18日（火）13：00～16：00

・開催場所 県トラック協会県中研修センター

・参加者 70名

・内 容 1) 荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドラインの説明 (株)富士通総研 コンサルタント 亀廻井 千鶴子 氏
2) 「ホワイト物流」推進について 東北運輸局福島運輸支局 輸送・監査部門 運輸企画専門官 菊地 美保 氏
3) 改正労働基準法のポイント 郡山労働基準監督署 副署長 高田 豊和 氏

⑩ 原価意識強化セミナーの開催

トラック運送事業が持続的収益力のある産業として発展していくため原価を適切に把握することにより、経営収支の改善に取り組むことが求められていることから原価計算方法に加え改正された新標準運送約款に対応した交渉事例等を取り入れるなど適正運賃・料金の収受に焦点をあてた内容で実施する予定だったが、新型コロナウイルスの影響により開催を中止した。

- ・開催日時 令和2年3月3日（火）13：00～16：30（中止）
- ・開催場所 県トラック協会県中研修センター
- ・内 容 原価計算の実践（実践編）、原価計算結果の活用（活用編）
- ・講 師 日本PMIコンサルティング(株) 代表取締役 小坂 真弘 氏

(3) 事故防止対策事業

① 交通事故防止の展開

関係機関並びに関係団体と連携して、各期に交通事故防止運動を展開するとともに、交通事故発生に伴いWeb掲載やファクシミリ送信による周知を緊急対策として実施した。

② 交通事故防止講習会の開催（本部主催）

今年度は東北中央道の一部開通や復興事業に伴う交通量増加等で交通事故が増加傾向にあることや4月からスタートした働き方改革の推進を含め下記機関と連携して事故防止の徹底を図った。

地区名	会 場	開催日	出席者数
県北地区	県トラック協会研修センター	R 1. 11. 15	100 名
いわき地区	パレスいわや	R 1. 11. 21	130 名
相双地区	南相馬市労働福祉会館	R 1. 11. 22	47 名
会津地区	会津方部共同休憩所	R 1. 11. 25	68 名
県南地区	白河の関トラックステーション	R 1. 11. 26	110 名
県中地区	ビックパレットふくしま	R 1. 12. 2	217 名
			計 672 名
講 師		役 職	氏 名
労働災害防止について 福島労働基準監督署 いわき労働基準監督署 相馬労働基準監督署 会津労働基準監督署 白河労働基準監督署 郡山労働基準監督署		労働基準監督官 労働基準監督官 監督・安衛課長 労働基準監督官 労働基準監督官 労働時間相談・支援班	畠 奈津子 氏 久米 悠介 氏 浅川 惣一 氏 嶺山 涉 氏 諫山 昇 氏 長田亜矢子 氏
道路交通事故と安全対策 福島県警察高速道路交通警察隊 福島分駐隊 福島県警察高速道路交通警察隊 いわき分駐隊 福島県警察高速道路交通警察隊 南相馬分駐隊 福島県警察高速道路交通警察隊 会津分駐隊 福島県警察高速道路交通警察隊 郡山分駐隊 福島県警察高速道路交通警察隊 郡山分駐隊		隊長 隊長 隊長 隊長 隊長 隊長	久留飛克典 氏 長命 修二 氏 大泉 勝実 氏 小川 昌宏 氏 花見 利之 氏 花見 利之 氏
関係法令と交通事故対策 東北運輸局福島運輸支局検査・整備・保安部門		陸運技術専門官	笹原 政二 氏

③ 支部事業（主催）による事故防止講習会等

支部名	開催日	講習会名	開催場所	受講者数
県中	R 1. 9. 28	交通事故防止講習会（田村）	辰巳屋	80 名
県南	R 1. 10. 26	交通事故防止講習会	白河の関 TS	120 名
県中	R 1. 11. 16	交通事故防止講習会（郡山・本宮）	県中研修センター	120 名
計				320 名

④ 運行管理者講習会の開催

自動車事故対策機構福島支所、富久山自動車教習所、平中央自動車学校、南湖自動車学校への受講料助成

○基礎講習 助成者数 323名

○一般講習 助成者数 912名

⑤ 交差点事故防止セミナーの開催

トラックによる交差点事故は死亡事故に繋がりやすいことから特に歩行者や自転車の巻き込み事故防止の観点からマニュアルの有効活用方法等を説明した。

- ・日 時 令和元年6月7日（金）13：30～16：30
- ・場 所 県トラック協会県中研修センター
- ・受講者 89名
- ・内 容 1）マニュアルの内容について
2）小集団による情報交換⇒1グループ10名程度に構成
3）情報提供&クロージング

講師 東京海上日動リスクコンサルティング㈱ 主席研究員 渡部 真吾 氏

⑥ 60分でわかるトラック重大事故対策出前セミナーの開催

トラックによる交差点事故は死亡事故に繋がりやすいことから、特に歩行者や自転車の巻き込み事故防止の観点で今回、県北支部ドライバーを中心にドライブレコーダ等の活用方法等を説明した。

- ・日 時 令和元年6月8日（土）9：30～11：00
- ・場 所 県トラック協会県修センター
- ・受講者 144名
- ・内 容 1）60分でわかるトラック重大事故防止対策
2）アンケート記入・事故防止支援に関する情報提供

講師 東京海上日動リスクコンサルティング㈱ 自動車リスク本部

主任研究員 花島 健吾 氏

⑦ トレーラの安全等に係る研修会の開催

トレーラによる車両火災や横転等の事故が増加していることからトレーラの適正使用の安全研修会を実施した。

- ・日 時 令和2年2月12日（水）13：30～16：00
- ・場 所 県トラック協会県中研修センター
- ・受講者 5名
- ・内 容 1）トレーラのより安全な使用
2）トレーラ輸送による輸送率向上について
3）トレーラの安全装置（ABS、横転抑制装置）と有効性

講師 日本自動車車体工業会 トレーラ部会（サービス委員会）木村 昌夫 氏
講師 日本自動車車体工業会 トレーラ部会（業務委員会）山田 彰二 氏

⑧ 初任運転者講習会

「初任運転者に対する特別な指導」指針に基づき、県内6自動車教習所において講習会を開催した。

開催日	会 場	受講者数	摘要
R 1. 6. 22	原町自動車教習所（南相馬市）	7名	1回目
R 1. 6. 22	福島自動車学校（福島市）	14名	1回目
R 1. 6. 22	湯本自動車学校（いわき市）	18名	1回目
R 1. 6. 22	南湖自動車学校（白河市）	18名	1回目
R 1. 6. 22	富久山自動車教習所（郡山市）	25名	1回目
R 1. 6. 29	扇町自動車教習所（会津若松市）	10名	1回目

R 1. 11. 9	福島自動車学校（福島市）	10 名	2 回目
R 1. 11. 9	富久山自動教習所（郡山市）	11 名	2 回目
R 1. 11. 9	扇町自動車教習所（会津若松市）	2 名	2 回目
R 1. 11. 9	湯本自動車学校（いわき市）	13 名	2 回目
R 1. 11. 9	原町自動車教習所（南相馬市）	2 名	2 回目
R 1. 11. 30	南湖自動車学校（白河市）	10 名	2 回目
合 計		140名	延べ12回

⑨「過労死等防止・健康起因」事故防止セミナーの開催

脳・心臓疾患の労災補償は道路貨物運送業が最も多い状況にあることから、健康管理等の具体的な取り組みを専門家から学び、健康起因事故を予防するため全日本トラック協会と共催して開催した。

- ・日 時 令和元年10月30日（水）
- ・場 所 県トラック協会県中研修センター
- ・受講者 154名
- ・内 容
 - 1）過労死等の実態（過労死等の認定基準、実態数値、過労死事例）
講師 陸上貨物運送事業労働災害防止協会 安全管理士 今井 候 氏
 - 2）過労死等防止計画について（過労死等の防止に向けたアクションプラン、全ト協の取組）
講師 公益社団法人全日本トラック協会 交通・環境部長 大西 政弘 氏
 - 3）ドライバーの健康管理（健康管理対策、産保センターの活用）
講師 福島産業保健総合支援センター相談員
福島県立医科大学准教授 各務 竹康 氏

⑩ 教材機器等の整備

運転者に対する研修、資料等の内容充実を図るため教材を購入し、本部および各支部事務局に配備して、希望事業所に貸し出した。

(4) 労務対策事業

トラック運送事業における取引環境・労働時間改善への対応として、福島労働局・福島運輸支局・県トラック協会が連携し「トラック輸送における取引環境・労働時間改善福島県協議会」を設置して、取引環境の改善、手待ち時間等の解消、総労働時間の削減に向けた環境整備を図った。

今年度は福島県協議会として建設資材の分野におけるヒアリングとホワイト物流の推進等について協議した。

開催日	場 所		摘 要
R 1. 11. 12	ザ・セレクトン福島		第11回
	出席者名	所 属	役 職
座長	今野 順夫 氏	福島大学	名誉教授
委 員	石井 浩 氏	福島県商工会議所連合会	常任幹事
〃	国分 和徳 氏	全日本運輸産業労働組合福島県連合会	執行委員長
〃	佐藤 勝則 氏	全国農業協同組合連合会福島県本部	副本部長
〃	柴田 信嘉 氏	アサヒビール株式会社福島工場	物流センター長
〃	渡辺 経佳 氏	日東紡績株式会社福島工場	副工場長兼総務部長
〃	小野 文也 氏	株式会社ヨークベニマル	物流事業部長

委員	夏坂 佳伸 氏	日本通運株式会社郡山支店	支店長
〃	佐藤 信成 氏	丸ヶ運送株式会社	代表取締役
〃	蓬田 隆信 氏	福島倉庫株式会社	代表取締役
〃	右近 八郎 氏	公益社団法人福島県トラック協会	会長
〃	岩瀬 信也 氏	福島労働局	局長
〃	藤井 敦 氏	東北運輸局	次長
〃	遠嶋 孝則 氏	東北運輸局福島運輸支局	支局長

(5) 適正化啓発対策事業

① 輸送相談所の開設

常設の輸送相談所を協会本部に開設し、年間を通じ輸送相談を実施した。県内6箇所を追加して対応した。

- ・年間相談件数 12件

② 報道機関による広報

公益社団法人全日本トラック協会・公益社団法人福島県トラック協会の連名で取引環境の改善と長時間労働抑制の取り組みを推進するため荷主企業・一般消費者向けに「待ち時間、積卸し作業、付帯業務は『有料』です。トラックドライバーの働き方改革推進のため、適正な運賃・料金のご負担に、ご理解のほどよろしく申し上げます。」と文言を入れた啓発活動を行った。

- ・福島民報新聞社、福島民友新聞社→令和2年2月20日（木）朝刊に掲載

10 青年部会関係

第1回正副部会長・事務局長会議	平成31年4月22日（月）	於	県中研修センター
監事会	令和元年5月15日（水）	於	県ト協
県北支部青年部会情報交換会	令和元年5月24日（金）	於	志乃ぶ
定時総会・第1回役員会	令和元年6月14日（金）	於	ルネッサンス中の島
東北トラック協会連合会青年部会定時総会・第1回役員会	令和元年6月5日（水）	於	ホテルメトロポリタン秋田
会津支部青年部会情報交換会	令和元年7月27日（土）	於	酒菜ほたる
県中支部青年部会第1回情報交換会	令和元年8月3日（土）	於	炉端ばんざい
東北トラック協会連合会青年部会第2回役員会	令和元年8月20日（火）	於	ホテルグランテラス国分町
第2回役員会	令和元年8月27日（火）	於	県中研修センター
県南支部青年部会視察研修	令和元年9月21日（土）	於	東北丸和ロジスティクス
全ト協青年部会東北ブロック大会	令和元年9月26日（木）	於	ホテルメトロポリタン秋田
第2回正副部会長・事務局長会議	令和元年10月7日（月）	於	郡山市労働福祉会館
いわき支部青年部会意見交換会	令和元年12月3日（火）	於	すし田村
東北トラック協会連合会青年部会第3回役員会	令和元年12月4日（水）	於	TKPガーデンシティ仙台勾当台
相双支部青年部会情報交換会	令和元年12月13日（金）	於	ホテルラフィーフ
県南支部青年部会情報交換会	令和2年1月25日（土）	於	あぐり
県中支部青年部会第2回情報交換会	令和2年2月8日（土）	於	さかなや 権九郎

全ト協青年部会全国大会

令和2年2月21日（金） 於 京王プラザホテル

11 女性部会関係

全ト協第1回代表者会議

令和元年7月3日（水） 於 全ト協

福ト協第1回役員会

令和元年7月10日（水） 於 県中研修センター

福ト協定時総会

令和元年7月29日（月） 於 ホテルハマツ

全ト協全国研修会

令和元年9月13日（金） 於 明治記念館

福ト協第2回役員会

令和元年9月20日（金） 於 南東北総合卸センター

福ト協研修会（物流セミナー）

令和元年9月27日（金） 於 ホテルハマツ

全ト協東北ブロック研修会

令和元年11月7日（木） 於 ザ・セレクトン福島

福ト協第3回役員会

令和2年1月24日（金） 於 南東北総合卸センター

福ト協新年会

令和2年2月21日（金） 於 ホテルハマツ

12 ダンプトラック部会関係

全ト協第9回被災地復旧復興分科会・東北ブロックダンプ^o輸送協議会

令和元年6月25日（火） 於 岩手県雫石

福ト協第1回役員会

令和元年7月8日（月） 於 県中研修センター

福ト協第2回役員会

令和元年12月13日（金） 於 県中研修センター

福ト協定時総会

令和元年7月23日（火） 於 県中研修センター

全ト協ダンプトラック部会

令和元年9月6日（金） 於 京都市

福ト協第3回役員会

令和元年12月13日（金） 於 県中研修センター

福ト協関係先年始挨拶回り

令和2年1月20日（月） 於 福島市

13 官庁届出・申請事項

(1) 東北運輸局福島運輸支局

令和元年6月24日 軽油を使用する営業用貨物車及び営業用特種（殊）用途車の登録台数（平成30年9月末現在）証明願提出

令和元年7月2日 同上 証明書受領（福運証第6号）

令和元年8月20日 令和元年度運輸事業振興助成交付金申請書事前提出・受理

令和2年3月10日 令和元年度運輸事業振興助成交付金事業変更承認申請書事前提出・受理

(2) 東北運輸局

令和元年8月19日 令和元年度運輸事業振興助成交付金申請書事前提出・受理

令和2年3月10日 令和元年度運輸事業振興助成交付金事業変更承認申請書事前提出・受理

(3) 福島県

令和元年6月4日 令和元年度運輸事業振興助成交付金内示（元生環第698号）

令和元年8月20日 令和元年度運輸事業振興助成交付金申請書提出

令和元年8月29日 令和元年度運輸事業振興助成交付金交付決定（福島県指令生環第1259号）

令和元年9月5日 令和元年度運輸事業振興助成交付金請求（令和元年9月17日受領）

令和2年3月11日 令和元年度運輸事業振興助成交付金事業変更承認申請書提出

令和2年3月23日 令和元年度運輸事業振興助成交付金事業変更承認（福島県指令生環第2681号）

令和2年3月23日 令和元年度運輸事業振興助成交付金請求（令和元年3月30日受領）

令和2年3月31日 令和元年度運輸事業振興助成交付金事業完了報告

14 登記事項

令和元年7月2日 理事6名新任、24名重任、3名退任

令和元年7月2日 監事5名重任

令和元年度における各種助成事業計画対決算 (運輸事業振興助成交付金関係)

(単位：千円)

助成事業名	元 年 度				増 減	
	決算額	実績値	計画額	計画値		
【交通安全対策事業】	135,016		126,850		8,166	
〔安全指導〕	27,387		28,550		△ 1,163	
S D カード助成	6,415	9,928 名	7,000	9,500 名	△ 585	428 名
適性診断：一般	9,393	4,027 名	8,970	3,900 名	423	127 名
〃 ：初任	3,844	1,922 名	3,800	1,900 名	44	22 名
〃 ：適齢	840	420 名	540	270 名	300	150 名
無呼吸症候群：SAS	3,516	704 名	3,740	748 名	△ 224	△ 44 名
〃 ：PSG	243	15 名	500	25 名	△ 257	△ 10 名
脳ドッグ受診	1,982	201 名	2,000	200 名	△ 18	1 名
ドライバー研修	1,154	19 名	2,000	35 名	△ 846	△ 16 名
〔事故防止の普及〕	107,629		98,300		9,329	
EMS	23,744	595 台	20,000	525 台	3,744	70 台
ドライブレコーダー	21,649	819 台	20,000	600 台	1,649	219 台
安全装置等	14,801	399 台	13,000	350 台	1,801	49 台
ASV 装置	4,238	43 台	3,000	30 台	1,238	13 台
フォークリフト	404	101 名	600	150 名	△ 196	△ 49 名
中型・大型免許取得（大型）	26,740	151 名	24,000	130 名	2,740	21 名
〃 （牽引）		40 名		30 名		10 名
〃 （中型）		26 名		36 名		△ 10 名
〃 （中型限定解除）		7 名		4 名		3 名
〃 （準中型）		1 名		2 名		△ 1 名
〃 （準中型限定解除）		2 名		5 名		△ 3 名
定期健康診断	11,774	7,849 名	12,000	8,000 名	△ 226	△ 151 名
血圧計	2,660	38 台	2,700	39 台	△ 40	△ 1 台
女性用休憩施設等整備	1,619	6 社	3,000	10 社	△ 1,381	△ 4 社
【交通公害対策事業】	54,106		53,000		1,106	
〔環境汚染防止対策〕	54,106		53,000		1,106	
アイドリングストップ	8,068	176 台	11,000	190 台	△ 2,932	△ 14 台
低公害車	22,626	407 台	21,000	320 台	1,626	87 台
エコタイヤ	23,412	11,706 本	21,000	10,500 本	2,412	1,206 本
【研修・調査事業】	1,692		1,690		2	
〔研修・調査〕	1,692		1,690		2	
中小企業大学校受講	78	4 人	190	10 人	△ 112	△ 6 人
グリーン経営認証制度	1,614	35 社	1,500	30 社	114	5 社
【基金運営事業】	19,582		18,527		1,055	
〔利子補給〕	6,663		6,527		136	
近代化基金：一般	1,448	58 件	1,351	59 件	97	29 件
〃 ：ポスト新長期	5,210	196 件	5,172	189 件	38	7 件
〃 低公害車・省エネ機器	5	1 件	4	1 件	1	0 件
〔信用保証対策〕	12,919		12,000		919	
信用保証料	908	11 件	1,500	15 件	△ 592	△ 4 件
緊急制度資金信用保証料	4,281	29 件	4,000	20 件	281	9 件
緊急制度資金支払利子	7,730	114 件	6,500	131 件	1,230	△ 17 件
【適正化事業】	3,490		3,500		△ 10	
運行管理者講習	3,490	1,400 人	3,500	1,400 人	△ 10	0 人
合 計	213,886		203,567		10,319	

2019(令和元)年度主な行事経過

(2019(平成31)年4月1日～2020(令和2)年3月31日)

1 主たる会議・行事等

【(公社)福島県トラック協会】

	開催日	開催場所
第1回「トラックの日」フェスタ実行委員会	4/22	県中研修センター
平成30年度分交付金検査	5/13	福島研修センター
2019年度安全性評価事業説明会	5/17	県中研修センター
県土木部要請行動	5/21	土木部道路計画課
トラック運送業界の働き方改革実現に向けたアクションプラン	5/24	県中研修センター
交差点事故防止マニュアル活用セミナー	6/7	県中研修センター
事故防止セミナー	6/8	福島研修センター
2019年度安全性評価事業個別相談会(県中支部)	6/18	県中研修センター
2019年度安全性評価事業個別相談会(会津支部)	6/21	会津方部共同休憩所
2019年度安全性評価事業個別相談会(相双支部)	6/21	相馬方部共同旧家所
霊柩事業者個別指導(5両未満)	6/24	県中研修センター
第2回「トラックの日」フェスタ実行委員会	6/26	県中研修センター
2019年度安全性評価事業個別相談会(いわき支部)	6/26	いわき方部共同休憩所
2019年度安全性評価事業個別相談会(県南支部)	6/28	白河の関トラックステーション
元年度運行管理者試験勉強会(第1回)	8/8	県中研修センター
元年度運行管理者試験勉強会(第2回)	8/9	県中研修センター
2019年度第1回運行管理者試験	8/25	南東北総合卸センター
第3回「トラックの日」フェスタ実行委員会	8/27	県中研修センター
「トラックの日」フェスタ	9/7	ビックパレットふくしま
秋の交通安全運動街頭キャンペーン	9/25	福島駅東口
献血協力表彰(福島市)	10/8	日赤血液センター(永井川)
消防訓練実施	10/10	福島トラック運送事業協同組合敷地内
南東北3県適正化事業指導員小規模グループ研修会	10/17	スパリゾートハワイアンズ
南東北3県適正化事業指導員小規模グループ研修会	10/18	スパリゾートハワイアンズ
令和元年度福島県総合防災訓練	10/26	アクアマリンパーク中央台交民館
2019年度過労死等防止・健康起因事故防止セミナー	10/30	県中研修センター
取引環境・労働時間改善福島県協議会	11/12	ザ・セレクトン福島
運送業説明見学会及び企業説明会	11/13	福島研修センター
事故防止講習会(県北)	11/15	福島研修センター
物流交流授業担当者打合せ	11/15	福島市立森合小学校
適正化事業委員会	11/16	郡山ビューホテル
福島県相双地域等の物流に関する協議会	11/21	
事故防止講習会(いわき)	11/21	パレスいわや

事故防止講習会（相双）	11/22	南相馬市労働福祉会館
第4回「トラックの日」フェスタ実行委員会	11/22	
事故防止講習会（会津）	11/25	会津方部共同休憩所
助成金説明会	11/25	南相馬／サンライフ
事故防止講習会（県南）	11/26	白河の関トラックステーション
事故防止講習会（県中）	12/2	ビックパレットふくしま
適正化事業・パトロール指導員会議	12/6	福島研修センター
福島県財政的援助等団体に係る監査	12/12	福島研修センター
年始あいさつ回り	1/7	福島市内
Gマーク認定証授与式	1/14	福島研修センター
物流交流授業	1/23	福島市立森合小学校
令和元年度第2回交付金委員会	1/29	県中研修センター
運送業説明見学会及び企業説明会	2/3	いわき支部
令和元年度IT活用セミナー	2/6	県中研修センター
令和元年度 第2回勉強会（13～14）～2日間	2/13	福島研修センター
労働時間短縮に向けたセミナー	2/18	県中研修センター
原価計算セミナー	3/3	県中研修センター
福島県交通遺児奨学基金協会寄付金贈呈（県庁）	3/24	県庁 生活環境部長室

【各 支 部】

開催日	開催場所
4/5	会津支部
4/5	いわき共同休憩所
4/5	県中センター中会議室
4/5	県北支部事務所
4/5	白河の関トラックステーション
4/15	相双支部会議室
4/17	いわき共同休憩所
4/17	ホテル辰巳屋
4/24	いわき支部共同休憩所
4/26	郡山ビューホテルアネックス
5/7	すし万大将
5/10	サンルート須賀川
5/10	ホテルラフィース
5/11	ルネッサンス中の島
5/11	会津一円
5/14	ホテル辰巳屋
5/16	福島テレサ
5/17	小名浜オーシャンホテル
5/23	南相馬道の駅
5/24	会津若松ワシントンホテル

いわき支部 第31回安全運転ドライバー研修会	5/25	タイヘイドライバーズスクール
県中支部 郡山北地区交通安全協会総会 感謝状授与式	5/28	南東北総合卸センター
いわき支部 運行管理者基礎講習会	5/28	いわき共同休憩所
いわき支部 運行管理者基礎講習会 2 日目	5/29	いわき共同休憩所
県中支部 郡山地区交通安全協会総会	5/29	郡山警察署
いわき支部 運行管理者基礎講習会 3 日目	5/30	いわき共同休憩所
会津支部 第 1 回役員会	6/3	会津支部
相双支部 第 1 回役員会	6/10	原町生涯学習センター
県北支部 安全運転技能講習会	6/13	福島自動車学校
いわき支部 高齢者の安全運転講習会	6/15	タイヘイドライバーズスクール
県北支部 安全運転技能講習会	6/19	福島自動車学校
県中支部 役員会	6/21	舟津
いわき支部 第32回安全運転ドライバー研修会	6/22	タイヘイドライバーズスクール
いわき支部 運行管理者一般講習会	6/27	いわき共同休憩所
県北支部 ドラコン予選会	7/1	UDトラックス福島
いわき支部 正・副支部長会議	7/2	いわき共同休憩所
県中支部 ソフトボール大会実行委員会	7/4	県中センター中会議室
相双支部 第 2 回役員会	7/5	猪苗代
県中支部 ドラコン予選会	7/6	研修センター大会議室、研修棟
県南支部 ドラコン予選会県南支部	7/6	白河の関トラックステーション
会津支部 ドラコン予選会	7/6	会津支部
いわき支部 ドラコン予選会	7/6	いわき共同休憩所
県北支部 安全運転技能講習会	7/10	福島自動車学校
県北支部 安全運転技能講習会	7/11	福島自動車学校
いわき支部 拡大役員会	7/12	いわきワシントンホテル
相双支部 ドラコン予選会	7/13	相双支部研修所・駐車場
いわき支部 いわき市見守りあんしんネット会議	7/17	ゆったり館
いわき支部 第33回安全運転ドライバー研修会	7/20	タイヘイドライバーズスクール
県中支部 ソフトボール大会	7/21	須賀川市民スポーツ広場
会津支部 青年部会情報交換会	7/27	酒菜 ほたる
いわき支部 運行管理者試験対策勉強会	7/31	いわき共同休憩所
県北支部 第 2 回役員会並びに懇親会	8/20	サンパレス福島
相双支部 第 3 回役員会	8/23	いわき
県中支部 郡山市防災訓練	8/31	郡山市桑野小学校
会津支部 特積部会懇親会	9/7	鳥益
県中支部 JR踏切脱出訓練	9/9	郡山自動車学校
県北支部 特積み部会情報交換並びに懇親会	9/12	藤むら
会津支部 定例会	9/13	会津支部
県北支部 キャプテン会議	9/19	福島研修センター
会津支部 クリーン作戦	9/21	会津支部

県中支部	田村地区事故防止講習会	9/28	田村市 辰巳屋
会津支部	ダンプ部会定例会	9/28	会津支部
県北支部	ソフトボール大会	10/6	東邦銀行総合グラウンド及び福島市農村広場
県中支部	役員会	10/7	県中研修センター
県中支部	安全運転ドライバー研修	10/12	昭和ドライバーズカレッジ
県北支部	福島市交通安全市民大会	10/21	福島テルサ
会津支部	喜多方地区産業安全衛生大会	10/24	喜多方プラザ文化センター
いわき支部	労働災害事故防止講習会	10/24	パレスいわや
相双支部	省エネ運転研修会懇親会	10/25	ひら好
県中支部	2019年度安全大会	10/26	郡山ビューホテルアネックス
相双支部	省エネ運転研修会	10/26	相双支部研修所・駐車場
会津支部	安全運転ドライバー研修	10/26	会津自動車学校
県南支部	交通事故防止講習会	10/26	白河の関トラックステーション
会津支部	郡山国道事務所管内除雪車始動式	10/28	会津若松除雪ステーション
いわき支部	第2回運行管理者一般講習会	10/29	いわき共同休憩所
会津支部	会津若松交通安全協会 安全啓蒙活動	11/1	会津若松市インター西 リオンドールアピオ店
相双支部	スポーツ交流会	11/2	ルミックスボウル原町
県北支部	省エネ運転講習会	11/9	福島日野自動車(株)福島支店
県中支部	省エネ運転講習	11/9	県中研修センター
会津支部	暴力追放会津若松市民大会	11/13	会津風雅堂
県中支部	郡山・本宮地区事故防止講習会	11/16	県中研修センター
いわき支部	第34回安全運転ドライバー研修会	11/16	タイヘイドライバーズスクール
県北支部	特積み部会会議	11/20	上杉
会津支部	第3回会津支部役員会、忘年会	11/22	会津迎賓館
相双支部	磐城国道事務所除雪作業安全祈願祭及び除雪車出動式	11/26	磐城国道事務所原町維持出張所
いわき支部	運行管理者基礎講習会の開催	11/27	いわき共同休憩所
いわき支部	運行管理者基礎講習会2日目	11/28	いわき共同休憩所
いわき支部	運行管理者基礎講習会3日目	11/29	いわき共同休憩所
県中支部	役員会	11/29	姑娘飯店
いわき支部	正・副支部長・青年部懇談会	12/3	
県北支部	第3回役員会及び懇親会	12/4	クーラクーリアンテ サンパレス
県中支部	本宮地区事故防止講習会	12/6	もとみやオーブ
会津支部	交通三団体等合同表彰式	12/11	会津若松ワシントンホテル
県中支部	郡山市交通遺児救援基金贈呈式	12/13	郡山市役所
県中支部	高速道路警察隊長感謝状贈呈式	12/13	県中支部
相双支部	年末事故防止研修会	12/13	南相馬市原町区Hラフィース
会津支部	特積み部会歓送迎会	12/14	会津若松市内（鳥益）
いわき支部	NASVA運行管理者一般講習	12/17	いわき共同休憩所
相双支部	第4回支部役員会	12/20	いわき
会津支部	警察署 感謝状贈呈式	12/25	会津若松警察署

県北支部	福島北警察署長感謝状贈呈式	12/27	福島北警察署
県中支部	2020年安全祈願及び賀詞交歓会	1/10	郡山ビューホテルアネックス
県北支部	健康増進ボウリング大会	1/11	からしまボウル
県中支部	交通安全活動基金贈呈	1/15	郡山、郡山北地区交通安全協会
いわき支部	拡大役委員会と新年会	1/17	正月荘
いわき支部	第34回安全運転ドライバー研修会	1/18	タイヘイドライバースクール
会津支部	安全大会	1/18	ルネッサンス中の島
県北支部	特積み部会新年会	1/21	吉川屋
県北支部	第4回役員会（予算委員会・安全大会実行委員会）	1/28	サンパレス福島
いわき支部	第3回運行管理者一般講習会	1/28	いわき共同休憩所
いわき支部	運行管理者試験対策勉強会	1/30	いわき共同休憩所
県中支部	田村地区定例会	2/1	あづま館
県中支部	田村地区定例会	2/2	あづま館
県北支部	『安全衛生推進者要請講習』	2/4	県中研修センター
県北支部	『安全衛生推進者要請講習』	2/5	県中研修センター
会津支部	ダンブ部会 新年会	2/7	東山グランドホテル
県中支部	役員会	2/10	県中研修センター
県北支部	安全衛生教育講習会事務局参加	2/13	県中研修センター
相双支部	2020年安全祈願祭及び新年会	2/15	南相馬市原町区Hラフィース
県中支部	本宮地区ボウリング大会	2/15	ボウルアピア
会津支部	第4回役員会	2/17	会津支部
会津支部	交通三団体交歓会	2/21	会津若松ワシントンホテル
相双支部	第5回支部役員会	3/6	
いわき支部	運転手を対象にした安全運転講習会	3/7	いわき共同休憩所
会津支部	第5回支部役員会	3/13	ニューパレス
県北支部	伊達市へ交通遺児激励金贈呈	3/27	伊達市役所
県北支部	福島市へ交通遺児激励金贈呈	3/31	福島市役所

【全日本トラック協会】

	開催日	開催場所
全ト協 全国専務理事業務連絡会議	4/11	全ト協
「星野良三氏叙勲を祝う会」	4/25	帝国ホテル「孔雀の間」
全ト協 第180回理事会	6/6	全ト協ホール
全ト協 被災地復旧復興分科会	6/25	岩手県雫石
全ト協 第95回通常総会	6/27	第一ホテル東京
全ト協 第181回理事会	6/27	第一ホテル東京
全ト協 第182回理事会	7/11	第一ホテル東京
全ト協 全国専務理事業務連絡会議	7/18	千葉市内ホテル
全ト協 第13回経営改善・情報化委員会	7/24	全ト協
全ト協 ダンプトラック部会	9/6	ホテルグランヴィア京都
全ト協 女性部会全国研修会	9/13	明治記念館

全ト協 青年部会 東北ブロック大会	9/26	ホテルメトロポリタン秋田
第24回全国トラック運送事業者大会	10/2	幕張メッセ
全ト協 第12回労働安全・衛生委員会	10/15	全ト協ホール
第51回全国トラックドライバー・コンテスト	10/26	安全運転中央研修所
第51回全国トラックドライバー・コンテスト	10/27	安全運転中央研修所
第51回全国トラックドライバー・コンテスト表彰式	10/28	第一ホテル東京
全ト協 女性部会東北ブロック研修会	11/7	ザ・セレクトン福島
全ト協 第183回理事会	12/5	第一ホテル東京
全ト協 全国専務理事業務連絡会議	1/9	
全ト協 新年賀詞交歓会	1/21	パレスホテル東京
全ト協 第114回交通対策委員会	2/3	全ト協ホール
全ト協 第13回労働安全・衛生委員会	2/6	全ト協ホール
全ト協 第14回経営改善・情報化委員会	2/12	全ト協ホール
全ト協 全国トラック協会長会議・懇親会	2/14	明治記念館
全ト協 第49回環境対策委員会	2/25	全ト協ホール
全ト協 第51回適正化事業委員会	2/26	全日本トラック協会大会議室
全ト協 第184回理事会	3/5	第一ホテル東京

【東北トラック協会連合会】

開催日	開催場所
東ト協連合会 青年部会 定時総会・第1回役員会	6/5 ホテルメトロポリタン秋田
東ト協連合会 常任理事会	6/17 仙台ガーデンパレス
東ト協連合会 常任理事会	8/8 仙台ガーデンパレス
東ト協連合会 青年部会 第2回役員会	8/20 ホテルグランテラス仙台南分町
東ト協連合会 総会	6/19 ホテルメトロポリタン仙台
東ト協連合会 常任理事会	9/3 仙台ガーデンパレス
東ト協連合会 事業者大会	9/10 ホテルメトロポリタン山形
東ト協連合会 常任理事会	11/19
東ト協連合会 正副会長会	11/22 山形グランドホテル
東ト協連合会 常任理事会	12/25
東ト協連合会 正副会長会、運輸懇談会、懇親会	1/24 仙台国際ホテル

【東北運輸局・福島運輸支局】

開催日	開催場所
整備管理者選任前研修	5/13 県中センター
東北運輸局長功労者表彰	6/3 ホテルメトロポリタン仙台
人材確保に向けたモード横断的な検討会	6/4
ホワイト物流に係る説明会	6/5 県中研修センター
福島運輸支局、福島県トラック協会との高校訪問	6/24 光南高校 他3校
物流政策懇談会	6/28 福島グリーンパレス
福島運輸支局、福島県トラック協会との高校訪問	7/4 県立勿来高校 他2校
福島運輸支局、福島県トラック協会との高校訪問	7/5 県立福島北高校 他2校

整備管理者選任前研修	8/27	県中センター
事業用自動車安全対策会議	9/25	福島運輸支局
東北運輸局福島運輸支局長表彰	11/1	福島グリーンパレス
荷主等と陸運事業者との連絡協議会	11/5	
取引環境～福島県協議会事務局打合せ	11/7	福島運輸支局
整備管理者選任前研修	11/18	県中センター
整備管理者選任後研習	1/31	いわき共同休憩所
整備管理者選任後研修	2/6	白河の関TS
整備管理者選任後研修	2/7	いわき共同休憩所
災害に強い物流システムの構築に関する連絡会	2/7	福島運輸支局
整備管理選任後研修	2/10	福島研修センター
整備管理者選任前研修	2/17	県中センター
整備管理者選任後研修	2/18	会津法部共同休憩所
整備管理者選任後	2/26	県中研修センター
整備管理者選任後	2/28	県中研修センター
新型コロナウイルス対応会議	3/13	自動車会議所 3 階会議室

【福島県高速道路交通安全協議会】

開催日	開催場所
会津分会 高速安協 交通安全キャンペーン	5/13 会津インター入口
県中分会 高速安協 交通安全キャンペーン	8/9 安積パーキング
県北分会 高速安協 交通安全キャンペーン	5/13 安達太良SA下り線
いわき分会 高速安協 交通安全キャンペーン	6/28 常磐自動車道いわき中央IC
東北ハイウェイ・セーフティ作戦、 東北六県高速道路交通安全対策合同推進会議	7/5 東日本高速道路(株)東北支社
高速安協 監事会	7/9 福島研修センター
県北分会 高速安協 交通安全キャンペーン	7/16 安達太良SA上り線
福島県高速道路交通安全協議会 通常総会	7/22 ザ・セレクトン福島
福島県高速道路交通安全協議会 第1回理事会	7/22 ザ・セレクトン福島
高速安協「ペースカー」出発式	7/31 福島飯坂IC
県北分会 高速安協 交通安全キャンペーン	9/24 吾妻PA上下線
高速安協 年未年始交通安全キャンペーン	12/11 安達太良SA下り
高速安協 厳冬期交通安全キャンペーン	2/20 安達太良SA下り

【協同組合関係】

開催日	開催場所
ふくトラネットワーク協同組合 監事会	4/23 福島研修センター
福興協 監事会	4/24 福島研修センター
日貨協連 第1回高速道路問題等検討小委員会	4/25 全ト協総合会館
除染等業務従事者特別教育	4/27 福島研修センター
福興協 理事会	5/7 福島研修センター
日貨協連 第1回理事会	5/8 全ト協総合会館

ふくトラネットワーク協同組合 理事会	5/15	県中研修センター
福興協 通常総会	5/27	福島研修センター
ふくトラネットワーク協同組合 通常総会	5/29	県中研修センター
日貨協連 第15回トラック運送事業協同組合全国大会	6/5	広島市 リーガロイヤルホテル広島
福島県トラック運送事業協同組合連合会総会	6/13	郡山市
除染等業務従事者特別教育	7/6	郡山市
日貨協連 第3回高速道路問題等検討小委員会	7/16	全ト協総合会館
福興協 理事会	8/6	福島研修センター
除染等業務従事者特別教育	9/14	福島研修センター
福興協 理事会	11/11	福島研修センター
除染等業務従事者特別教育	11/9	福島研修センター
日貨協連第2回政策・高速道路委員会・正副委員長会議	2/10	東京都トラック総合会館
福興協 理事会	2/12	福島研修センター
除染等業務従事者特別教育	2/15	福島研修センター
日貨協連 KIT・情報化委員会	2/21	
福島県トラック運送事業協同組合連合会令和2年3月理事会	3/4	県中研修センター
ふくトラネットワーク協組理事会	3/25	県中研修センター

【政治連盟関係】

	開催日	開催場所
元国務大臣参議院議員森まさこ国政報告会	4/20	ホテル辰巳屋
国民民主党福島県総支部連合会定期大会	4/20	ホテルハマツ
木幡福島市長を囲む「朝食会」	5/17	ザ・セレクトン福島
菅官房長官街頭演説会	6/15	「こむこむ」前
森まさこ総決起大会	6/15	ホテル辰巳屋
自民党支援団体との意見交換会	6/20	ウェディングエルティ
「根本匠厚生労働大臣を励ます会」	6/22	ホテルハマツ
「森まさこ」第一声	7/4	「こむこむ」前
森まさこ演説会	7/12	卸町会館
福島県トラック事業政治連盟懇親パーティー	11/16	郡山ビューホテル

【福島県・福島県警】

	開催日	開催場所
2019年度セーフティチャレンジ事業実行委員会	4/19	福島運転免許センター
福島県交通対策協議会第1回幹事会	4/22	県庁西庁舎2階
平成31年春の交通安全運動街頭キャンペーン	5/10	福島駅東口
福島空港利用促進協議会総会	5/17	杉妻会館
福島県交通対策協議会定期総会	5/29	県庁本庁舎5階
福島県交通安全協会定時総会及び第2回理事会	5/30	ホテル福島グリーンパレス
福島県交通遺児奨学基金協会理事会	6/10	
県北支部 「福島北地区交通安全協会」靴用反射材贈呈式	7/16	福島北警察署
国道13号線既成同盟会議	9/10	山形

福島県交通遺児奨学基金協会寄付金贈呈	3/24	県庁
--------------------	------	----

【陸災防】

	開催日	開催場所
陸災防支部委員会	5/15	県中研修センター
陸災防支部委員会	7/31	福島研修センター
陸災防北海道東北ブロック会議	8/20	青森国際ホテル
安全衛生レベルアップ支援事業研修会	9/25	福島研修センター
第55回全国陸運労災防止大会	11/7	大津市民会館
陸災防 第3回支部委員会	11/11	福島研修センター

【その他】

	開催日	開催場所
自動車会議所陸運業務連絡協議会	4/10	自動車会議所
福島県霊柩自動車組合2019年度総会	5/14	猫啼温泉「井筒屋」
東北交通共済理事会	5/17	仙台
自動車会議所第1回理事会	5/28	ザ・セレクトン福島
東北交通共済総代会	6/4	仙台
自動車会議所陸運業務連絡協議会	6/5	自動車会議所
第15回不正改造防止総決起大会並びに不正改造防止研修会	6/21	福自販会館3階大研修室
自動車会議所第2回理事会・評議員理事合同会議	6/26	ザ・セレクトン福島
福島県商工中金会 2019年度講演会並びに懇親会	7/19	ウェディングエルティ
相双地域等物流活性化に向けた説明会	8/28	相双支部会議室
自動車会議所陸運業務連絡協議会	10/8	自動車会議所
福島県自動車会議所第3回理事会	11/1	ザ・セレクトン福島
東北交通共済理事会	12/3	
令和元年12月陸運業務連絡協議会	12/4	自動車会館
自動車関係団体専務理事会忘年会	12/11	ホテル福島グリーンパレス
福島県自動車会議所会長会	1/9	ザ・セレクトン福島
福島県自動車会議所賀詞交歓会	1/9	ザ・セレクトン福島
福島県商工中金会新春講演会並びに交流会	1/22	ウェディングエルティ
東北中央自動車道を活用した地域連携・交流シンポジウム	2/4	相馬市民会館大ホール
令和2年2月陸運業務連絡協議会	2/14	自動車会館

令和2年度事業計画書

〔I〕策定基調

1. 日本経済の現状認識は、7年近くにわたるアベノミクスの推進により、デフレではない状況を作り出す中で、GDPは名目・実質ともに過去最大規模に達しており、我が国の景気は内需を中心に緩やかな回復基調にある。設備投資は、非製造業におけるICT投資など新しい時代に対応した前向きな投資が進み、賃金は、6年連続で今世紀最高水準の賃上げが実現している。また、2000年代半ばと比べて景気感の地域間のばらつきも小さくなっているなど、地方における経済は厳しいながらも、好循環の前向きな動きが生まれ始めている。グローバル面では、訪日外国人旅行者数が3,000万人を超え過去最高となり、TPP11や日EU・EPAの発効、さらには日米貿易協定によりグローバルな場でのチャンスが広がっている。こうした中、令和元年10月1日に実施した消費税率引上げについては、軽減税率制度や臨時・特別の措置など各種の対応策もあって、引上げ前の駆け込み需要やその後の落ち込みは、一部では台風の影響等もあって販売減がみられるが、現時点では全体として前回（平成26年）ほどではないと見られる。引き続き、消費税率引上げによる影響には十分注意しつつ、各種の対応策を着実に実施していくとしている。
2. 東日本大震災の発生から9年が経過し、また、毎年大規模自然災害が発生する中、本年は新型コロナウイルスの感染と大変厳しい時代を迎えており、これらの対応には急がれるところであります。そうした中、福島県の場合、令和3年度末には復興創生期間が終了する予定です。福島県の農林水産業、製造業はともに復興半ばであります。福島県の将来に向けてサービス産業がけん引力となり、その基幹たるトラック業界が担う責任と期待は非常に大きいものであります。
3. 令和2年度トラック関係予算・税制等について、特に、令和2年3月末までとなっている自動車運送事業者のETC2.0搭載車を対象とした大口・多頻度割引50%枠を堅持するため、令和元年度補正予算により必要な予算を確保するよう要望している。トラック輸送にとって、高速道路の利用は、ドライバーの拘束時間短縮等働き方改革の実現、輸送時間の短縮及び定時性の確保等生産性の向上の実現に不可欠なものであり、物流効率化の推進に欠かせないものとなっている。
4. 昨今のトラック運送業界を取り巻く現状を踏まえて、福島県トラック協会が取り組む主要な課題には、国会議員及び行政への要望活動、交通事故・労働災害防止の推進、労働環境の改善と法令遵守の励行、助成金や各種セミナー開催による会員各社への経営支援、広報戦略と新規労働力の獲得支援、トラック業界イメージ向上の推進などがあり、都度、広報誌「わだち」やホームページを通じて、会員各位への周知に努めていく。
特に、令和2年度は、当面する喫緊の課題として次の2つについて積極的に取り組む。
 - (1) ドライバー確保のためのトラック業界イメージアップを図るには、業界の安全性（交通事故ゼロ・労働災害ゼロ）と労働環境の待遇改善に取り組み、魅力等について強くアピールする。
 - (2) 標準貨物自動車運送約款の改正や標準運賃告示制度を活用して適正運賃を収受するため、国会議員や各省庁に働きかけ全荷主への周知を図っていく。
5. 災害時には支援物資の緊急輸送の役割を担うなど、国民生活と経済のライフラインとしての重要な役割を果たしているトラック運送業界は、安全かつ環境にやさしい輸送の実現、魅力ある事業の確立、社会的地位の向上が求められており、福島県トラック協会は会員の事業発展と交通事故労働災害防止を目標に、これらの諸課題の克服と業界に課せられた公共的な使命の達成に向けて、次の最重点施策及び重点施策を積極的に取り組む。

【最重点施策】

- (1) 改正貨物自動車運送事業法の施行等に係る対応
- (2) 標準貨物自動車運送約款の浸透等による適正な運賃・料金収受の推進
- (3) 長時間労働の是正を図るため、生産性の向上や取引環境の改善等「働き方改革」の実現に向けた対策の推進
- (4) 人材確保対策の積極的な推進
- (5) 交通及び労災事故の防止対策の推進
- (6) 高速道路通行料金の大口・多頻度割引最大50%枠の堅持及び更なる割引の拡充並びに道路の積極的な活用に向けた諸対策の実現
- (7) 新技術を活用した物流の効率化等の推進

【重点施策】

- (1) 自動車関係諸税の簡素化・軽減の実現
- (2) 燃料高騰対策等の推進
- (3) 環境・省エネ対策の推進
- (4) 適正化事業等の推進による法令遵守の徹底
- (5) 大規模災害発生時における緊急輸送体制の確立

〔Ⅱ〕 事業計画

【最重点施策】

- (1) 改正貨物自動車運送事業法の施行等に係る対応
 - ① 改正貨物自動車運送事業法の施行等に係る対応
- (2) 標準貨物自動車運送約款の浸透等による適正な運賃・料金収受の推進
 - ① 契約の書面化及び下請・荷主適正取引推進ガイドラインの普及・定着
 - ② 働き方改革対応に向けた原価管理の徹底等による適正運賃・料金の収受
- (3) 長時間労働の是正を図るため、生産性の向上や取引環境の改善等「働き方改革」の実現に向けた対策の推進
 - ① 働き方改革関連法への適切な対応
 - ② 「トラック輸送における取引環境・労働時間改善協議会」の的確な運営
 - ③ ホワイト物流推進運動など荷主との連携による生産性向上に向けた取り組みの実施
 - ④ 改善基準告示の見直しに向けた対応
- (4) 人材確保対策の積極的な推進
 - ① 高校新卒者等の採用促進のためのインターンシップを含む総合的な対策の策定及び実施
 - ② 女性、高齢者及び若年層の採用等を含めた労働力確保及び育成・定着対策の推進
 - ③ 事業後継者等の育成
 - ④ 運転免許制度等に係る諸課題への対応策の検討
 - ⑤ 外国人労働者の活用に向けた対応策の検討
- (5) 交通及び労災事故の防止対策の推進
 - 交通事故防止対策
 - ① 事業用トラックによる交通事故実態の把握と要因分析及び事故防止対策の啓発
 - ② 飲酒運転根絶に向けた取り組みの強化

- ③ 安全対策機器等の普及促進
- ④ 高度なIT点呼システムの普及拡大
- ⑤ 「運輸安全マネジメント」の普及拡大
- ⑥ 駐車問題見直しへの対応
- ⑦ 福島県トラックドライバー・コンテストの実施
- ⑧ 白河の関トラックステーションの管理運営
- 労働災害防止対策
 - ① 過労死等防止対策の推進
 - ② 健康状態に起因する事故及びメンタルヘルス対策の推進
 - ③ 労働災害防止、荷主対策の推進
 - ④ 高速道路のSA・PA、道の駅における駐車スペースの確保・拡充
- (6) 高速道路通行料金の大口・多頻度割引50%枠の堅持及び更なる割引の拡充並びに高速道路の積極的な活用に向けた諸対策の実現
 - ① 大口・多頻度割引50%枠の堅持及び更なる割引の充実等
 - ② 高速道路ネットワークの積極的整備推進及びミッシングリンクの解消
 - ③ 高速道路における暫定2車線の4車線化など安全対策及び渋滞対策の推進
 - ④ 「重要物流道路」の更なる拡充や機能強化の推進
 - ⑤ 車両及び道路通行に関する制度簡素化及び規制緩和要望の推進
 - ⑥ ETC2.0を活用した物流対策
- (7) 新技術を活用した物流の効率化等の推進
 - ① 自動運転・隊列走行の対応
 - ② IT化の推進並びに情報セキュリティ対策の対応
 - ③ 中継輸送の実現に向けた対応及びスワップボディ、ダブル連結トラック等の普及

【重点施策】

- (1) 自動車関係諸税の簡素化・軽減の実現
 - ① 自動車関係諸税の簡素化・軽減の実現
 - ② 軽油引取税の旧暫定税率の廃止等税負担の軽減
- (2) 燃料対策等の推進
 - ① 自家用燃料供給施設整備支援助成事業及び燃料費対策特別融資の実施
 - ② 石油製品価格動向調査の実施
 - ③ 燃料サーチャージ導入の積極的な促進
- (3) 環境・省エネ対策の推進
 - ① 新・環境基本行動計画の推進
 - ② エコドライブの徹底に向けたEMS機器等の導入及びアイドリングストップ支援機器の普及促進
 - ③ NGV等環境対応車の普及促進
- (4) 適正化事業等の推進による法令遵守の徹底
 - ① 巡回指導の充実強化による法令遵守の徹底
 - ② 安全性評価事業（Gマーク制度）の積極的な推進及び普及促進策の実施
 - ③ 適正化事業指導員に係る研修事業の充実及び更なる資質の向上
- (5) 大規模災害発生時における緊急輸送体制の確立

- ① 大規模災害発生時における緊急物資輸送体制の確立及び迅速な対応
 - ② 大規模災害発生時に備えた災害物流専門家の育成
- (6) その他
- ① 各種広報媒体を活用した対外的なPR対策の積極的な推進及び広報誌「わだち」等による会員事業者向け情報提供
 - ② 引越事業者優良認定制度の推進と消費者サービス向上に向けた支援
 - ③ 福島県トラック協会の会員及び職員等に対する研修の充実及び能力の開発

〔Ⅲ〕 主な事業計画

【業務部関係】

1 交通公害対策事業

- ① 低公害車等の導入促進
 - ・環境対策推進のためのディーゼル車排出ガス対策として、低燃費トラック・低公害車等導入に対して助成する。
- ② エコタイヤ導入促進
 - ・エコタイヤ（転がり抵抗を5%以上低減するタイヤ（再生タイヤを含む））の導入に対して助成する。
- ③ アイドリングストップ支援機器導入促進
 - ・アイドリングストップを積極的に推進するために、エアヒーター、蓄熱式マット、蓄熱式電気毛布、蓄冷式クーラーや車載バッテリーを活用した冷房装置などに加えて、外部電源により車内で冷房が使用できるパッケージクーラー等の導入に対して、全日本トラック協会と協調して助成する。
- ④ エコドライブの推進
 - ・「アイドリングストップ宣言」のステッカー（トラック貼付用）を各会員事業所へ配布し、燃料節約及び排出ガス削減を目的としたエコドライブの推進を図る。
 - ・全日本トラック協会作成の「エコドライブ推進マニュアル」、「エコドライブ推進手帳」などを配布・活用する。
- ⑤ 環境汚染防止の啓発
 - ・「環境汚染防止思想普及のためのポスター」等を作成し、配布する。
- ⑥ トラックの森づくり事業
 - ・地球温暖化防止対策の一環として、相馬市において「トラックの森」づくり事業を進める。

2 交通安全対策事業

- ① 飲酒運転撲滅の推進
 - ・飲酒運転件数ゼロと事故件数・死者数の大幅削減を目指す「事業用自動車総合安全プラン2020」に基づき目標を設定して諸対策を徹底する。
 - ・呼気吹込み式アルコールインターロック、IT機器を活用した遠隔地で行う点呼に使用する携帯型アルコール検知器（Gマーク認定事業所限定）導入に対して助成する。
- ② 安全装置導入促進
 - ・後退時等の事故を防止するため、後方・側方視野確認支援装置の導入に対して助成する。
- ③ ドライバー等安全教育訓練
 - ・ドライバーの安全教育のため安全教育訓練施設である安全運転中央研修所の研修参加者に対して助成を行うとともに、県内の自動車学校を利用し、安全運転講習会を実施する。

④ 適性診断受診促進

- ・運転適性診断受診者に対して、会員及び非会員を対象に助成する。但し、非会員においてはGマーク取得を条件とする。

⑤ EMS及びドライブレコーダー機器導入促進

- ・数値等で走行結果が得られ、ドライバーに対し安全運転管理や指導等に活用できるデジタルタコグラフなどEMS機器の導入に対して助成する。
- ・映像等で走行データが得られ、ドライバーに対し安全運転管理や指導等に活用できるドライブレコーダーの導入に対して、全日本トラック協会と協調して助成する。

⑥ 衝突被害軽減ブレーキ装着車の導入促進

- ・交通事故防止の対策強化の一環として、追突事故を防止するために、中型車の衝突被害軽減ブレーキの導入に対して助成する。

⑦ SDカードの取得促進

- ・ドライバーの安全管理・安全教育等に活用するため、自動車安全運転センター発行のSDカード取得者に対して、会員及び非会員を対象に助成する。ただし、非会員においてはGマーク取得を条件とする。

⑧ トラックドライバー・コンテストの実施

- ・安全意識ならびに運転技能の向上を図るために「トラックドライバー・コンテスト県大会」を実施する。

⑨ 交通事故防止シルバーメール作戦の推進

- ・高齢者の交通事故防止を図るため、福島県交通対策協議会が実施する交通事故防止シルバーメール作戦を推進する。

⑩ 交通安全思想普及を図るため広報・助成を推進

- ・テレビ、ラジオスポット放送など交通事故防止普及啓発広報を実施する。
- ・（一社）福島県交通安全協会が主催するセーフティチャレンジ事業を助成する。

⑪ 事故防止PR用品の作成・配布

- ・高齢者等の交通事故防止を図るため、関係機関と連携しながら事故防止PR用品を作成配布する。

3 中央出捐事業

① 中央出捐事業

- ・「運輸事業の振興の助成に関する法律」に基づき全日本トラック協会に交付金額の23.0%を出捐する。全日本トラック協会が実施している事業の大部分は「運輸事業の振興の助成に関する法律」の第1条「国民の生活の利便性の向上及び地球温暖化対策の推進に寄与するため」これらに該当する事業を行なう。そのなかで、福島県トラック協会は全日本トラック協会から助成を受ける。内容は緊急輸送体制整備事業助成、事故防止安全装置機器導入並びにドライバー安全研修、追突事故防止SAS対策等交通安全事業の助成、さらに交通環境対策機器導入助成、輸送秩序確立のための適正化事業体制整備の助成などが含まれている。これらの助成収入は、交通公害対策事業、交通安全対策事業、適正化事業、研修・調査事業及び広報事業などに活用する。

4 緊急輸送整備事業

① 緊急輸送体制の整備

- ・大規模災害発生時における情報ネットワークの整備を図るとともに、緊急輸送体制の確立と防災機能

の強化を図る。

② 緊急輸送訓練

- ・県など地方自治体が実施する防災訓練（緊急物資輸送訓練）への積極的な参加を図る。

5 研修・調査事業

① グリーン経営認証制度促進

- ・「グリーン経営認証制度」の普及や取得の促進を図り、取得等費用の一部を助成する。

② 中小企業大学校講座受講料助成

- ・中小企業の経営者・管理者等が必要な知識・能力を身につけ、経営課題解決と支援担当者の支援能力向上を図るために（独）中小企業基盤整備機構が運営する中小企業大学校の講座受講を促進し、全日本トラック協会と協調して、受講料の一部を助成する。

③ IT活用支援の促進

- ・運送事業者における生産性向上と経営改善を図るため、ITに関する実践的な活用セミナーの開催やIT活用に係る調査・情報提供等により、IT活用の理解促進に取り組む。

④ 人材育成・確保のためのPR戦略の策定取組

- ・トラック運送業界に携わる人材の育成及び人材確保に向けた、研修・調査に係る各種事業に取り組む。

⑤ 若年層に向けた、物流に対する認知度向上に関する事業

- ・少子高齢化に伴う若年労働者不足解消の一助とすべく、若年層における物流に関する理解と知識を深めてもらうため、学校訪問を行い、学生向けの物流出前授業等やインターンシップ等を実施する。

6 福利厚生事業

① 研修施設管理

- ・研修施設として、「本部研修センター」及び「県中研修センター」「白河の関トラックステーション」を有し、トラック運送に係る知識や技能を高めるための講習や研修等の会場とし、また、貸出しする。

② 共同休憩所及びトラックステーション管理

- ・国道又は幹線道路において大型車等が駐車できる共同休憩所として、県内4ヵ所の「会津方部共同休憩所」「相馬方部共同休憩所」「いわき方部共同休憩所」及び「白河の関トラックステーション」を維持・管理し、安全対策に必要不可欠な車両点検や自動車運転者の休憩時間・休息期間の確保等、労働時間の改善基準に即応するよう適切に活用する。

7 労働災害防止対策事業

① SAS、PSG及び脳ドッグの検査促進

- ・ドライバーの運行中の、強い眠気等による労災・交通事故を回避するために睡眠時無呼吸症候群（SAS）スクリーニング検査及びPSG（精密検査）の受診者に対し、会員及び非会員を対象に全日本トラック協会と協調し助成する。ただし、非会員においてはGマーク取得を条件とする。
- ・ドライバーの突然の脳血管障害を未然に防止し、労災・交通事故を回避するために脳ドッグの受診者に対し、会員及び非会員を対象に助成する。ただし、非会員においてはGマーク取得を条件とする。

② フォークリフト運転技能講習受講促進

- ・ドライバーの労働災害防止を図るためフォークリフト運転技能講習の受講料を助成する。

③ 運行管理者講習の受講促進

- ・行政関係の行う運行管理者講習会に積極的に参加させ、管理者業務の徹底を図るため、運行管理者基礎講習及び運行管理者一般講習の受講料の助成を行う。なお、一般講習においては、会員及び非会員を対象に助成する。ただし、非会員においてはGマーク取得を条件とする。

④ 準中型・中型・大型免許等取得促進

- ・県内の教習所において、準中型・中型・大型免許等の取得に対して助成する。

⑤ 定期健康診断の受診促進

- ・自動車運転者の過労死（脳・心臓疾患）が増加傾向であることから、運転者の健康を管理し事故防止に資する定期健康診断の受診者に対し、会員及び非会員を対象に助成する。

ただし、非会員においてはGマーク取得を条件とする。

また、従業員の健康管理を図るため、全自動血圧計の導入に対して助成する。

⑥ 女性用休憩施設等の整備促進

- ・女性ドライバー等の女性従業員が働きやすい職場環境づくりを図るため、休憩施設、女性用トイレ等の改修費用の一部を助成する。

⑦ 人材確保対策の推進

- ・高校新卒者の採用促進並びに若年者、女性等の労働力確保・定着に向けて、国、県や関係機関等との連携により、意見交換会や運送業説明会など各種人材確保諸施策に取り組む。

8 レクリエーション施設貸与事業

① レクリエーション施設貸与事業

- ・レクリエーションセンター（体育館）を有し、地域の保育所、学校関係、クラブチームの活動拠点として貸与する。

9 広報誌「わだち」の発行

① 広報誌「わだち」の発行

- ・機関誌「わだち」（毎月1回、16ページを基本とし、各月で情報に応じてページ数を増減）を発行し、トラック運送事業経営に係わる情報提供や事故防止対策及び環境対策等への取り組みの周知を図り、ホームページへも掲載し、広く一般にも情報提供を行う。

② イメージアップに向けた広報資材の作成

- ・トラック業界のイメージアップと理解促進を図るため、パンフレットの作成・配布及び新イメージキャラクターを活用した広報資材の作成などにより、多様なPR活動に取り組む。

10 基金運営事業

① 信用保証料助成

- ・会員事業者の資金融資を支援するため、環境問題や安全対策さらには、震災・原発事故対策のため、保証協会の保証による融資の保証料及び県制度資金融資借入等の保証料を助成する。

② 車両購入及び物流施設建設に係る斡旋融資に対する利子補給

- ・トラック運送事業の近代化、合理化に資するとともに輸送力の増強を促進するため、近代化資金融資の斡旋並びにその融資に対して利子補給を実施し、省エネ推進及びトラック走行に伴う環境問題の重要性に鑑み、ポスト新長期規制車の購入及び環境対応車並びにEMS等購入を促進するための融資に対しても利子補給を実施する。

11 キャンペーン事業

① トラックの日フェスタ

- ・全日本トラック協会を中心に10月9日を「トラックの日」と定められていることから事業後継者の育成を目指す青年部会及び女性の積極的な社会進出を目指す女性部会の社会貢献活動展開に向け「トラックの日フェスタ」を開催し、トラック運送業界のイメージアップと社会的役割を周知するとともに事故防止対策及び環境対策等を呼びかける。

12 若手経営者、後継者等の人材育成・確保に関する事業

① 若手経営者、後継者等の人材育成に関する事業

- ・少子高齢化の流れの中で、会員事業者各社にとっても、若手経営者、後継者等の人材育成は重要な課題であり急務であることから、会員事業者所属の若手経営者、後継者によって組織される青年部会と連携し、研修事業を中心とした各種人材育成事業の企画、運営を実施する。
- ・トラック運送事業のイメージアップが急がれる中、女性特有の感性や考えを取り入れることが重要であることから、「女性部会」の活動としてこれらの課題の解決のため青年部会と連携しながら、関連する各種行事への参加や一般社会に向けてアピールするなど、積極的に各種活動に取り組む。

13 セーフティチャレンジ事業による独自の事業

① セーフティチャレンジ事業による独自の事業

- ・（一社）福島県交通安全協会が主催するセーフティチャレンジ事業に会員事業者が積極的に参加し、無事故・無違反を達成し、主催者表彰から漏れたチームを対象に福島県トラック協会が独自に抽選会を実施し、副賞を贈呈する。さらに、特に結果が優秀な事業所には事故防止コンクール表彰として「福島県交通対策協議会」「（一社）福島県交通安全協会」「（公社）福島県トラック協会」の3者連名で表彰する。

14 レクリエーションセンター事業

- ### ① レクリエーションセンター（体育館）を有し、トラック運送業界に従事する者の日常生活における肉体的、精神的疲労から回復のため貸与する

【適正化事業部関係】

1. 改正貨物自動車運送事業法の施行等に係る対応

改正貨物自動車運送事業法の施行に伴い、パンフレット配布等により周知を図るとともに巡回指導を通じた法令遵守の徹底を図る。

2. 標準貨物自動車運送約款の浸透等による適正な運賃・料金収受の推進

(1) 契約の書面化及び下請・荷主適正取引推進ガイドラインの普及・定着

契約の書面化及び下請・荷主適正取引推進ガイドラインに基づきトラック運送事業者と荷主等に対して周知を行い普及・定着を図る。

(2) 働き方改革対応に向けた原価管理の徹底等による適正運賃・料金の収受

- ・平成31年以降に段階的に施行されている働き方改革関連法の改正内容及び施行時期について、巡回指導時等にリーフレットを活用して周知徹底を図る。
- ・原価意識の強化と適正運賃収受に繋がるセミナー等の開催により収益力向上を図る。

3. 長時間労働是正を図るため、生産性の向上や取引環境の改善等「働き方改革」の実現に向けた対策の推進

(1) 働き方改革関連法への適切な対応

働き方改革の実現に向けてセミナー等を通じて普及促進を図る。

(2) 「トラック輸送における取引環境・労働時間改善福島県協議会」の的確な運営

福島運輸支局並びに福島労働局と連携を密にし、福島県協議会が的確に運営されるよう全日本トラック協会（以下全ト協）と情報を共有し対応を図る。

(3) ホワイト物流推進運動など荷主との連携による生産性向上に向けた取り組みの実施

- ・福島運輸支局並びに福島労働局と連携を図り、「取引環境と長時間労働改善に向けたガイドライン」の普及促進を図る。
- ・パイロット事業の好事例の周知と荷主とトラック運送事業者の連携による生産性向上に向けた取り組みを全ト協とともに支援する。

(4) 改善基準告示の見直しに向けた対応

改正労働基準法等働き方改革関連法について、事業者周知を図るとともに、運行の実態を踏まえつつ必要に応じて関係行政機関と適切な情報交換等を行う。

4. 交通及び労災事故の防止対策の推進

(1) 交通事故防止対策

① 事業用トラックによる交通事故実態の把握と要因分析及び事故防止対策の啓発

- ・「事業用自動車総合安全プラン2020」目標達成に向けた取り組みを全ト協と連携して事故防止に係るセミナー等の開催並びに事故事例と対策を示した広報等で情報提供し事故防止に努める。
- ・事業用トラックを第一当事者とする死亡事故件数を車両台数1万台当たり「1.5」件以下とすることを目標とし、事故防止対策の推進を図る。

② 飲酒運転根絶に向けた取り組みの強化

- ・巡回指導によるアルコール検知器の作動確認を実施するなどして運行管理者の飲酒運転防止に向けた意識高揚を図る。
- ・事故防止講習会等で飲酒運転根絶に向けた取り組みを説明するとともに啓発リーフレット配布等で飲酒運転ゼロを目指す。

③ 高度なIT点呼システムの普及拡大

Gマーク取得事業所等に関係機関からの通達等の情報を当協会ホームページで開示しIT点呼システムの普及促進を図る。

④ 「運輸安全マネジメント」の普及拡大

巡回指導で運輸安全マネジメントの取り組み内容についての指摘事項が多いことから事業所に見合った取り組みとなるよう指導・助言し効果ある運用を図る。

(2) 労働災害防止対策

① 過労死等防止対策の推進

- ・「過労死等防止計画」の具体的な行動計画に基づき、全ト協とともに過労死等防止対策を推進する。
- ・「事業用自動車総合安全プラン2020」目標達成に向けたセミナーの開催や啓発資料等で過労死等に向けた意識の高揚を図るとともに過労死等防止対策に係る普及促進を図る。

② 健康状態に起因する事故及びメンタルヘルス対策の推進

- ・巡回指導等で健康診断等の受診の徹底を図るとともに、メンタルヘルスケアの重要性について普及

促進を図る。

- ・「トラック事業者のための健康起因事故防止マニュアル」を活用したセミナー等を通じ、健康起因による事故防止対策を推進する。

5. 適正化事業等の推進による法令遵守の徹底

(1) 巡回指導の充実強化による法令遵守の徹底

- ・令和元年11月に施行された改正貨物自動車運送事業法に係る関係通達の一部改正に伴い改訂した「巡回指導の指針」及び「巡回指導マニュアル」に基づく巡回指導の徹底を図り、評価方法の均一化に努めるとともに、効果的・効率的な指導の実施に努める。
- ・速報制度の適切な対応を含め、運輸支局と定期的な連絡会議等で報告・相談する等、連絡体制を密にして諸課題への迅速かつ適切な対応を図る。
- ・巡回指導は運輸支局と連携し、新規（新設含む）事業者及び巡回指導結果等を踏まえて優先度に応じた巡回計画とし、特に総合評価がD及びE判定事業者に対するフォローアップを充実させる。（目標件数540件）
- ・運輸支局長の要請を受けて実施する「乗務時間等告示違反営業所に対する特別巡回指導」については労働時間等に特化した調査・指導を行うこととし、事業者の早期改善をフォローする。
- ・5両未満の霊柩事業者については運輸支局と連携して個別巡回指導で対応する。
県中地区対象に実施（5両以上は通常巡回で対応）
- ・全ト協の活動指針に基づき安全性優良認定事業所においても4年以上の期間をあげない頻度で巡回指導を実施し認定レベルの維持を図る。
- ・巡回指導において社会保険等が未加入又は保険料未納付であることが確認された場合には、社会保険制度に関する周知を図るとともに、加入又は保険料納付の徹底を的確に指導する。
- ・適正化事業の更なる推進を図るため適正化事業評議委員会を開催し、適正化事業の業務等について意見・助言等を本事業に反映する等適切な運営を図る。

(2) 安全性評価事業（Gマーク制度）の積極的な推進及び普及促進策の実施

- ・令和元年度の認定事業者数497（30.2％）に新規25事業所を加えた522事業所の認定（32.0％）を目指し、説明会の開催及び相談業務を充実させる。
- ・認定が連続10年以上の事業所を対象とした「表彰制度」の普及に協力する。
- ・Gマーク事業を推進させるため新聞広告並びにラッピングトラックによるPR走行を実施し啓発に務める。（県北・会津地区）
- ・Gマークステッカーの「有効期限切れ」や「廃車時」の剥離の徹底等、ステッカーの適正な管理を推進する。

(3) 適正化事業指導員に係る研修事業の充実及び更なる資質の向上

- ・全ト協が行う全国研修（初級・専門・特別・スキルアップ）、官民合同で行うブロック研修に指導員を積極的に参加させ、資質向上を図る。
- ・全国研修を補完する小グループ研修では調査手法や判定・指導方法についてのグループ討議等を実施、巡回指導の評価手法の均一化を図る。

(4) 車両及び道路通行等諸規則の緩和要望の促進

事業者からの道路通行等諸規則の緩和要望を取りまとめ、全ト協を通じて関係機関へ働きかける。

(5) 特殊車両通行許可制度の遵守の徹底

特殊車両に係る法令遵守等を図るため、許可条件違反への対応等関係法令改正について動画配信サイ

ト（YouTube）を利用したストリーミング配信による特車講習会等研修会を開催し特殊車両等の事故防止を図る。

(6) 事故防止活動の取り組み

- 関係行政等（労働局・運輸支局・県警察）の協力を得ながら事故防止講習会を県内6地区で開催し、交通事故防止に努める。
- 巡回指導で指導件数が高い「初任運転者の指導・教育」について事業者が主体的にできる指導者育成のため初任運転者講習会を県内6ヶ所の自動車教習所で実施する。
- 各支部で常備しているDVD等の教材について内容の充実を図る。
- 適正化指導員を「飲酒運転防止インストラクター」として養成し、巡回指導等で飲酒運転防止に取り組む。

(7) 適正・円滑な苦情処理

- 苦情に対して適切な指導・解決を図り、関係行政と協力し円滑な処理に努める。
- 寄せられた苦情内容をホームページに公表し注意喚起を促す。
- 令和2年4月以降の苦情情報については情報処理システムに登録することにより、適切な管理及び活用を行う。

(8) 輸送秩序確立等に係る指導及び広報啓発活動の推進

- 会員事業所と荷主企業を対象にした「物流セミナー」を開催し、トラック業界を抱える諸問題について理解と協力を求めながらパートナーシップ構築の更なる強化を推進する。
- 交通事故防止及び輸送秩序確立等に係る違法行為防止と啓発活動のためパトロール指導員による巡回パトロールを実施する。
- 支部や部会等で行う各種講習会・会議等の開催に併せ、適正化事業に係る説明等の要望に応えるため適正化セミナーを実施する。

【総務部関係】

1. 東日本大震災並びに東京電力福島第一原発事故からの復旧・復興の支援について

- (1) 現在実施している「除去土壌等輸送」に、積極的に関わるとともに、国・県・県選出国会議員への陳情・要望活動を継続し、福島県が抱えている風評被害の払拭や避難されている被災者の一刻も早い帰還促進のため取り組んでいく。
- (2) 「福島復興支援輸送協同組合」が実施する「除染等業務従事者特別教育」の実施会場の提供及び講師派遣について積極的に支援する。

2. 組織・財政について

(1) 支部の円滑な運営に向けた取り組み

- ① 支部事務局長の理事会オブザーバー参加を引き続き継続する。また、支部事務局長業務連絡会議を年4回程度開催する。

(2) 広報対策の充実・強化について

- ① 広報誌「わだち」並びに「ホームページ」のリニューアルを推進する。また、「メール」等の活用により、会員事業者への情報提供を適宜・適切に行う。
- ② トラック運送事業の実情について、あらゆる機会をとらえメディアを活用して積極的に広報する。

(3) 支部交付金について

- 支部交付金は、前年度の管理費実績をもとに、新年度で実施する各支部の活動計画に係る費用に見

合った金額とし、具体的な金額は各支部の予算編成金額とする。

(4) 庶務関係事項

- ① 開催する会議は、定時総会（6月）、理事会（通常4回、臨時は必要により）、常任理事会（必要により）、部会（必要により）、委員会については、総務委員会・交付金委員会・広報委員会・適正化委員会の4委員会とし、委員会の活性化を図ることとする。
- ② ダンプトラック部会・青年部会・女性部会の運営については、部会の主体性を尊重した中で事務局が行う。
- ③ 表彰については、「東北運輸局長」、「東北運輸局福島運輸支局長」、「全ト協表彰規定による」、「全ト協優秀運転者表彰」、「事故防止コンクールの優良事業者」、「福ト協優良従業員」について対応する。

令和２年度 予算書

(正味財産増減計算書)

令和２年４月１日から令和３年３月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収入			
受取入会金			
受取入会金	2,000,000	3,000,000	△ 1,000,000
受取入会金計	2,000,000	3,000,000	△ 1,000,000
受取会費			
普通会员受取会費	136,000,000	131,300,000	4,700,000
受取会費計	136,000,000	131,300,000	4,700,000
事業収益			
補助金等収入	477,646,000	460,141,000	17,505,000
利息収入計	1,298,000	1,746,000	△ 448,000
研修センター等利用収入	5,340,000	5,706,000	△ 366,000
事業収益計	484,284,000	467,593,000	16,691,000
受取補助金等			
全ト協助成金収入	27,042,000	26,401,000	641,000
全ト協受取補助金等計	27,042,000	26,401,000	641,000
雑収益			
受取利息	10,000	20,000	△ 10,000
雑収入	3,900,000	4,200,000	△ 300,000
雑収益計	3,910,000	4,220,000	△ 310,000
その他収入	8,860,000	8,812,000	48,000
その他収入計	8,860,000	8,812,000	48,000
経常収益計	662,096,000	641,326,000	20,770,000
(2) 経常費用			
事業費			
給料手当	52,853,935	52,271,000	582,935
賞与	9,233,000	9,538,000	△ 305,000
法定福利費	9,206,443	9,197,000	9,443
旅費交通費	6,869,000	7,245,000	△ 376,000
通信運搬費	4,560,000	4,590,000	△ 30,000
減価償却費計	40,360,286	40,098,601	261,685
会議費	1,425,000	1,780,000	△ 355,000
消耗什器備品費	350,000	2,962,000	△ 2,612,000
消耗品費	2,900,000	3,750,000	△ 850,000
修繕費	13,000,000	7,000,000	6,000,000
印刷製本費	11,150,000	14,740,000	△ 3,590,000
光熱水料費	8,000,000	7,600,000	400,000
賃借料	3,356,000	5,126,000	△ 1,770,000
保険料	1,200,000	1,240,000	△ 40,000
諸謝金	1,240,000	1,950,000	△ 710,000
租税公課	6,413,000	6,239,000	174,000
支払負担金	300,000	340,000	△ 40,000
支払助成金	209,524,313	204,468,000	5,056,313
委託費	20,655,000	17,260,000	3,395,000
車輛費	1,860,000	1,862,000	△ 2,000
中央出捐	109,858,580	105,833,000	4,025,580
会場費	1,915,000	1,310,000	605,000
表彰費	2,160,000	1,770,000	390,000
広告宣伝費	33,977,000	18,750,000	15,227,000
図書費（事業）	100,000	100,000	0
雑費	2,405,000	2,262,000	143,000
事業費計	554,871,557	529,281,601	25,589,956

科 目	当年度	前年度	増減
管理費			
役員報酬	13,920,000	6,840,000	7,080,000
給料手当	26,000,000	32,000,000	△ 6,000,000
賞与	3,900,000	5,000,000	△ 1,100,000
退職給付			0
役員退職慰労金			
法定福利費	10,420,000	9,000,000	1,420,000
退職給付引当金繰入額	5,000,000	4,800,000	200,000
役員退職慰労引当金繰入額	2,000,000	570,000	1,430,000
福利厚生費	11,400,000	11,050,000	350,000
会議費	11,570,000	12,005,000	△ 435,000
交際費	740,000	640,000	100,000
旅費交通費	13,430,000	13,250,000	180,000
通信運搬費	3,300,000	3,520,000	△ 220,000
減価償却費	860,057	410,632	449,425
消耗什器備品費	160,000		160,000
消耗品費	1,490,000	1,400,000	90,000
修繕費	80,000	60,000	20,000
印刷製本費	4,740,000	4,418,000	322,000
光熱水料費	1,190,000	1,160,000	30,000
賃借料	2,540,000	1,827,000	713,000
保険料	175,000	145,000	30,000
諸謝金	1,035,000	1,135,000	△ 100,000
租税公課	2,000,000	2,000,000	0
支払負担金	13,530,000	12,954,000	576,000
支払寄付金	830,000	780,000	50,000
車輛費	190,000	220,000	△ 30,000
委託費	970,000	1,035,000	△ 65,000
表彰費	2,650,000	3,550,000	△ 900,000
会場費	1,190,000	1,300,000	△ 110,000
広告宣伝費	1,690,000	1,751,000	△ 61,000
図書費	30,000	30,000	0
支払指導料	1,020,000	1,000,000	20,000
諸用紙費	2,200,000	2,600,000	△ 400,000
雑費	2,430,000	2,390,000	40,000
管理費計	142,680,057	138,840,632	3,839,425
経常費用計	697,551,614	668,122,233	29,429,381
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 35,455,614	△ 26,796,233	△ 8,659,381
当期経常増減額	△ 35,455,614	△ 26,796,233	△ 8,659,381
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益			
車両運搬具売却益			
固定資産売却益計			
経常外収益計			
(2) 経常外費用			
固定資産売却損失			
土地売却損失			
固定資産減損損失			
建物除却損失			
構築物除却損失			
什器備品除却損失			
車両除却損失			
機械装置除却損失			
固定資産除却損失計			
経常外費用計			
当期経常外増減額			
税引前当期一般正味財産増減額	△ 35,455,614	△ 26,796,233	△ 8,659,381
法人税・住民税及び事業税	90,000	90,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 35,545,614	△ 26,886,233	△ 8,659,381
一般正味財産期首残高	3,651,185,370	3,676,652,534	△ 25,467,164
一般正味財産期末残高	3,615,639,756	3,649,766,301	△ 34,126,545
Ⅱ 正味財産期末残高	3,615,639,756	3,649,766,301	△ 34,126,545